

# ふなかわら

第32号

2020年9月30日発行  
編集・発行 上村直樹  
〒278-8510  
千葉県野田市山崎2641  
東京理科大学薬学部内  
印刷・菅原印刷株式会社



「新しくなった飯田橋駅西口」上村直樹（同窓会長）撮影

## CONTENTS

1. 同窓会会長挨拶（上村 直樹）	2	12. ホームカミングデー 2019に出席して	17
2. 副会長挨拶（磯部総一郎）	3	13. 卒業生報告 近況報告（宮浦 千里）	18
（伊集院一成）	3	（富野 浩充）	19
3. 学部長挨拶（宮崎 智）	4	14. 追悼文（堀江 淳子）	20
4. 学科主任挨拶（羽田 紀康）	4	（吉田 華代）	20
（和田 猛）	5	（西谷 潔）	20
5. WEB名簿システムについて	5	（深井 文雄）	21
6. 同窓会ホームページをリニューアルしました	6	（大島 広行・牧野 公子）	21
7. 令和2年度同窓会通常総会報告	7	（廣田 慶司）	22
8. 令和3年度東京理科大学薬学部同窓会総会について	8	（小島 良紀（旧姓 川尻））	22
9. 同窓会だより		（金親 肇）	23
第14期同期会開催延期のお知らせ	9	（西谷 潔）	23
第15期同期会開催延期のお知らせ	9	15. トピック	
第16期同期会開催延期のお知らせ	9	研究室紹介 分子医科学研究室（秋本 和憲）	24
2019年度地区交流会報告	10	恩師からのたより（砂金 信義）	26
第4期同期会報告	10	16. 生涯学習プログラム 2020年度後期講座のご案内	28
第8期同期会（42年入学の会）報告	11	17. 理窓会からのご案内（増淵 忠行）	29
第3期同期会報告	11	18. 同窓会事務局からのお知らせ	
第19期同期会開催報告	12	薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています…	30
卒後50周年記念、第6期同期会報告	12	「幹事会」は「定例会」に変わりました	30
第18期同期会報告	13	19. 登録情報の変更方法	31
第12期同期会報告	13	20. 会費・寄付金納入者一覧	31
薬理学同門会報告	14	21. 終身会員一覧	31
10. 退任の挨拶（後藤 恵子）	15	22. 訃報	35
（小茂田昌代）	15	23. 同窓会の連絡先およびホームページ	36
（和田 浩志）	15	24. 編集後記	36
11. 新任の挨拶（野口 耕司）	16	25. 同窓会幹事一覧	36
（安元加奈未）	16		

# 同窓会会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 会長 上村 直樹



薬学部同窓の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より同窓会活動に対して深いご理解と多大なご協力を賜り、感謝申し上げます。

本年は新型コロナウイルスの蔓延により、いままでに経験したことがない生活を余儀なくされました。その影響は同窓会にとっても大きく、設立以来、初めて同窓会総会の中止という事態に至りました。しかし組織の活動を止めることはできませんので、書面表決にて議案の承認をいただきました。ご協力いただきありがとうございます。また、本年は薬学部創立60周年になります。記念式典を理窓会のホームカミングデーと同日に開催する予定でしたが、両イベントともに中止になりました。大変残念でなりません。たった0.1マイクロメートルという小さな生物が、人々の暮らしを一変させ、企業や国まで減ほしかねないという驚きの事実を我々は突きつけられたように思います。薬学部で微生物学を学びましたが、その恐ろしさは実際に体験して初めてわかりました。しかし我々は科学という武器でウイルスに立ち向かう使命があります。同窓会の繋がりがそのような面でも役に立てたら嬉しいです。

さて、ホームページをリニューアルしましたがご覧いただけましたでしょうか。画面のイメージががらりと変わりました。若い同窓生による意見をもとに同窓の業者によって作業を進めています。まだ進化の途中ですので、ご意見をいただければ幸いです。会員名簿も冊子版からCD-ROM版、そしてWEB版と変化しました。WEB版か

らは個人情報保護の観点から開示する情報も会員本人が決めることができます。また、メールアドレスや勤務先や住所の変更等も事務局への連絡ではなく、ご自身で更新していただく必要があります。そのため「ふなかわら」にはID、PWを同封しておりますので、この機会に必ずPWの変更や内容の確認と更新をお願いします。今後は費用節減のためメールを利用したお知らせに全て切り替える予定ですので、メールアドレスの入力をよろしくお願いします。

薬学部は2025年に葛飾キャンパスに移転します。現在は内部のレイアウトを決定するために教員からのヒアリングを実施している状況です。来年から建築工事に入るそうです。神楽坂と野田の卒業生だけでなく2029年には葛飾の卒業生が加わることになります。実践社会薬学は大学主催の講義になりましたが、講師の選別に関しては同窓会が協力しています。キャリア教育として、在校生との懇談会も大学と共催で実施しており、今後も大学との連携を強くして、大学から頼られる同窓会になります。

最後に私は2年前より理窓会の常務委員を拝命し、関連団体としてだけでなく理窓会のいろいろな事業に係わり、改めて学部を超えた東京理科大学の絆を実感しております。同窓の絆は人生のどこかで必ず役に立ちます。大学時代を思い返していただき、学友との再会のために同窓会を利用していただくこと心より祈念しております。



## 副会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 副会長 磯部 総一郎



東京理科大学薬学部同窓会の副会長をしております。磯部総一郎です。

同窓会は、大きく言うと、2つの役割があると思っております。

第一は、同窓生の親睦の場を提供するということです。東京理科大学薬学部を卒業した後、製薬メーカー、病院、薬局、研究所・大学、行政などの職に就いている方が多いかと思いますが、同窓生であることを知ることで、話しやすくなり、大学時代の思い出などを語り、思いがけない方と同窓生であることを知り、親しくなれることがあるかと思っております。

同期の方々や同じ研究室の方々とは面識があっても、それ以外の同窓生の方々との接点は同窓会ぐらいしかないのではないかと思います。

だんだん、年齢がいくつくと、同じ職場以外の方との付き合いがあるかないかで、仕事の幅が変わってくるということもあります。

同じ校舎、同じ先生に学んだもの同士、卒業しても楽しく付き合っていきたいですね。

第二は、母校である東京理科大学薬学部への貢献です。毎年、学生達に、卒業したらどのような職に就くことができるのか、同窓生の人達が講演したり就職相談に乗っ

てあげたりしています。また、大学のイベントへの協力などを通じて、卒業しても東京理科大学薬学部とつながっていただける場にも同窓会がなっております。

今年は、新型コロナウイルス感染症の流行により、同窓会活動を縮小せざるをえず、皆さんと顔を合わすことのできる定例会を開催することがなかなかできず、総会も書面開催になってしまいました。残念でありませんが、是非、来年は皆さんの元気な顔をみたいと思っております。

蛇足ながら、昨年7月に東京理科大学薬学部卒業以来、34年間勤めてきた厚生労働省を退職いたしました。現在は、公益社団法人日本薬剤師会において、専務理事として働いております。また、恩師の池北雅彦先生が理事長を務められ薬学部が新設された公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の理事長特別補佐、特命教授も拝命しております。職場が変わると慣れるまで大変ですが、日本薬剤師会にはおかげさまで顔見知りの方も多く、何とか日々の業務をこなしております。

新型コロナウイルス感染症対策関連の業務が多くありますが、薬剤師・薬局の未来を見つめて元気ががんばっていききたいと思います。拙文失礼しました。

皆様、今後ともどうかよろしく願いいたします。

## 副会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 副会長 伊集院 一成



皆さん、こんにちは。同窓会副会長を拝命しております伊集院一成と申します。何卒よろしくお願い致します。私は理科大を1988年（25期）に卒業し、製薬企業に勤務したのち、薬局へ転職しました。企業へ就職した時には鈴木静夫教授の紹介を活用して外資系製薬企業の開発業務に携わることができたのですが、ふと思うことがあり薬局へ転職しました。薬局へ転職する際にも再度鈴木教授にお世話になって現在に至っています。いま所属している薬局は薬学部3期生であられる中村洋司氏が創業された会社です。生意気な社員でしたので、一旦退職したのですが、同じ薬局に戻ってきてしまいました。不義理をしたのに広い心で迎えて下さった中村先輩には感謝しかありません。また、薬学6年制教育が始まる少し前から、理大での実習（無菌製剤）のお手伝いをさせていただくようになり、その後現同窓会会長の上村直樹先輩の陰謀(?)でみなし専任教員として大学教育に関わらせて頂いております。また、現在ロボットアプリ等の開発を行っている会社では、水八寿裕氏（30期）と一緒に仕事をさせて頂いております。

自分の半生を振り返ると、恐ろしい事に全ての場面で理大が関係していることが判ります。卒業して数年は、

理大生の特徴として「愛校心」が無い状態で自分が世の中を切り開いているくらいの認識だったのですが、今思えばすべて同窓会というネットワークの中で動いていました。お釈迦様の手の平にいる孫悟空みたいと言えば判りやすいでしょうか。それだけ、同窓会というものが私の中では大きな存在になっていました。

今年（2020年）はオリンピック開催年ということもあり、同窓会総会の日程調整で苦労しました。今年は私の卒業期である25期が担当幹事ということもあり、懐かしの同級生と連絡を取り合い準備を進めていましたが、世界中がコロナ禍に巻き込まれ、オリンピックも延期、同窓会総会&講演会の開催についてどうするか議論を重ねて参りましたが、状況を鑑み今年度は中止という決断を致しました。理大薬学部の卒業生の多くが医療の最前線で働いていること、薬業界でも中心となっていることを考慮した結果です。皆との再会を楽しみにされていたことと思いますが、何卒ご理解の程よろしく願いいたします。

来年2021年には、世の中が落ち着いて同窓会総会を含めた多くのイベントが普通にできる世の中になっていることを切に願います。これからも引き続き同窓会活動へのご協力をお願い致します。

## 学部長挨拶

### 本学薬学部の建学の精神は？

薬学部長 宮崎 智



2020年10月より、2期目をスタートすることになりました。宮崎です。将来構想の実現に向けましては、同窓生の方に、これまで以上にご支援をお願いする機会が増えると思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

この2年間に、東京理科大学では、次世代へ向けた学部・学科の再編とキャンパス移転の議論が大きく進みました。薬学部においても6年制への一本化も視野に入れ、変革への議論がありました。特徴教育の思考、ブランド力や人事方針の立案と調整に翻弄されつつ、松本学長からは「本邦を代表する薬学教育の雄となれ」という激励を幾度となく聞かされておりました。また、現役の学生の育成とならんで、本邦の薬学リカレント教育をどうすべきかという大きな課題もあります。そんな時、ある方から「理科大薬学部の建学の精神や理念は教員間で十分に共有できていますかね？」という問いかけを頂いたことがあります。本学の建学の精神は、「理学の普及をもって国運発展の基礎とする」ですね。余談ですが、少し想像を膨らませると、本学の21名の創始者は、在籍していた東京大学では、この精神は実現できないと思ったのかもしれない。一方、薬学部の理念は「医薬分子をとおして人類の健康を守る志をもった優れた人材を育成する」ですが、建学の精神に相当するものは、あまり議論されたことがありません。

私立大学の中で本学と比較されることが多い2つのK大学薬学部の英語名称は、それぞれ、Faculty of PharmacyとSchool of Pharmacyです。本学は、Faculty of Pharmaceutical Science となっています。6年制が始動したときにも、この名称がそのまま引き継がれました。ここにこそ、歴代の教員および同窓生の共通の認識としての建学の精神が隠れているのではないかと思います。すなわち、本学の目指す「薬学」は「薬学研究・科学」であるという力強いメッセージが伝承されているものと、改めて感じた次第です。

学部学科再編論においては、「ブランド力」というキーワードについても繰り返し登場しています。私は、ブランド力は、現役の教職員・学生だけで作ることは到底できず、むしろ、「同窓生の活躍こそがブランド力に繋がる」と思っています。どこで活躍されているかではなく、どのように活躍されているのかという観点のメッセージを発信していただけると幸いです。

2020年の前期は、新入生をはじめ、学生の入構の機会が大幅に限定されました。奇しくもIT教育の可能性が広がったという成果もあったわけですが、公共の福祉と学生の教育を受ける権利の両立の実現に向けて、「災い転じて福となす」施策に思いを馳せております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 学科主任挨拶

薬学科 主任 羽田 紀康



令和2年10月より薬学科主任を仰せつかりました羽田紀康と申します。若輩ですが、どうぞよろしくお願いいたします。平成18年の入学生から6年制薬学科はスタートし、令和2年3月に9期生が卒業しました。理科大薬学部薬学科から卒業した800余名の学生さんは、どう活躍してくれているのでしょうか。6年制スタート時、6年になる理由は、実務実習の充実が一番に挙げられておりましたが、同時に、教養教育と、卒論研究のさらなる充実も含まれていると聞きました。その目的にかなった薬剤師排出をどれだけの薬学部が実践しているのでしょうか。多くの大学が4年制の時以上に国家試験対策に偏重し、後者2つの教育がおろそかになる中、本学は、理念・教育目標に掲げております「ヒューマニティと高度

化する医療に適切に対応できる研究心を兼ね備えた薬剤師の育成」を着実に実践し、先の3課題をいずれも充実させてきていると自負しております。ただ、本学には併設の医学部はなく、多くの病院にお世話になりながら病院実習が行われているわけですが、それだけに実務実習前の学内での実習が重要になってきます。本学の学生を外に出しても恥ずかしくないよう実務家の先生と手を取り、さらに実務実習の充実を図らねばと痛感しております。

現在、新型コロナの影響で学生さんは大変な思いをしています。教職員一同、少しでも彼らに寄り添えるよう努力して参ります。同窓生の諸先輩方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

# 学科主任挨拶

生命創薬科学科 主任 和田 猛



令和2年10月より、2期目となる生命創薬科学科学科主任を拝命いたしました和田猛と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、新執行部体制のスタートとなり、身が引き締まる思いとともに、責任の重さを実感しています。

全学的に学部・学科再編が計画される中、また全国私立薬系大学の中でも4年制薬学科の存在意義が問われる中、本薬学部では薬学部体制のありかたに関する議論が時間をかけて真剣に行われました。結論として、薬学科・生命創薬科学科の2学科体制を堅持し、東京理科大学薬学部の特徴と強みをさらに活かした教育、研究を推進する道を選択いたしました。

ここ10年あまりの実績を振り返りますと、生命創薬科学科では、約90%の学生が薬学研究科修士課程に進学し、製薬企業の研究・開発分野に50%以上の学生を定常的に輩出しており、企業からも高く評価されております。この成果を積極的に受験生にアピールし、優秀な学生を受け入れる努力をするとともに、今後は、薬学を基礎とし、多様な分野で国際的にも活躍できるリーダーとなる薬学

サイエンティストの育成を目指してまいります。

3年前に生命創薬科学科では、大幅なカリキュラムの改編を行いました。具体的には、3年次選択科目の大幅な充実を図る一方、薬理学、薬剤学、衛生学など薬学基礎の上において、薬学のアイデンティティを踏襲する科目については、選択科目としても、必修と同等であることを学生が意識できるような履修モデルの作成を進めてまいりました。また、今年度から、2年次の後期までに、幅広い科目で好成績を収めている学生には、3年次の後期から各研究室で研究を行う「早期薬科学研究」を新設し、卒業研究や修士課程の先取り教育も視野に入れた人材育成を行ってまいります。今後、2025年に予定される薬学部の葛飾移転に向けて、さらなるカリキュラムの改良・充実を目指します。

最後になりますが、本学薬学部の同窓生の皆様のご健勝と益々のご発展をお祈りするとともに、引き続きご指導、ご鞭撻および後輩への温かいご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

## WEB名簿システムについて

東京理科大学薬学部同窓会では、5年ごとに同窓会名簿を発行して参りました。しかし、冊子版（2000年度版以前）は製作および保管廃棄にも経費が嵩むため、CD-ROM版（2005、2010年度版）を採用いたしました。が、短期間でパソコンのOSが更新していくため、数年で使用することができないことが判明しました。

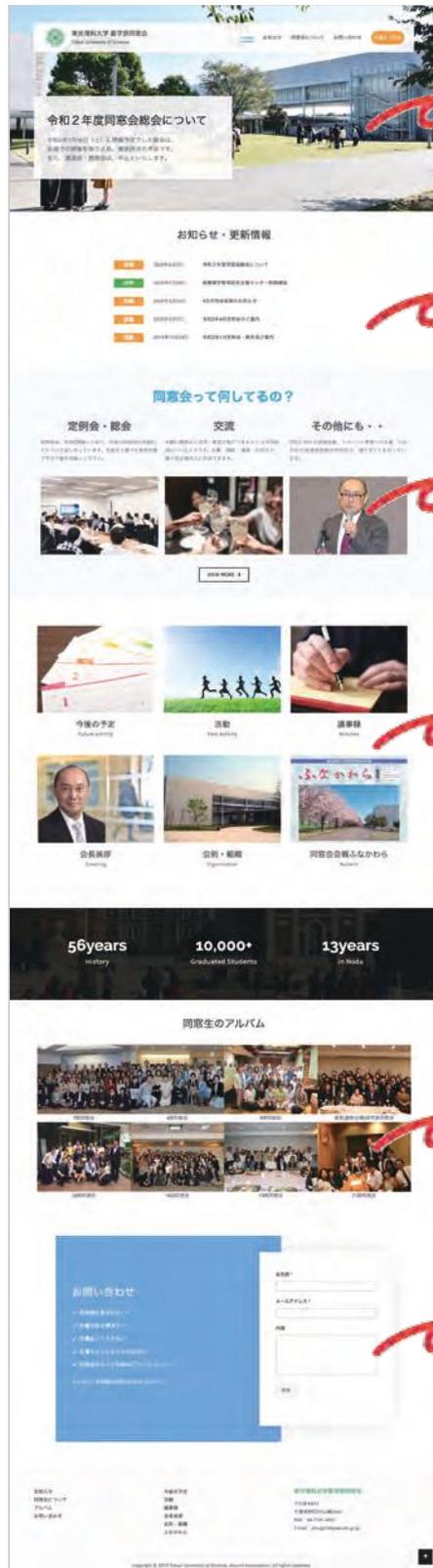
そこで、同窓会幹事会におきまして、今後の名簿について審議した結果、WEB名簿システムを採用することになり、すでに運用を開始しております。このシステムは、同窓会事務局が行っている会員管理機能と名簿機能の両者を併せ持つシステムです。会員個人がインターネット上で登録情報を更新し、その個人情報公開の可否を項目毎に選択することができるため、会員の情報開示の意志に沿ったシステムとなります。システムの構築時に若干の費用が掛かりますが、半永久的に使用することができ、その後の経費もサーバー管理料と保守管理料程度で済みます。

このふなかわら32号に、WEB名簿システムを利用するときに必要な会員コードとパスワードを同封しております。これまでこのシステムをご利用でない方は、なるべく早めにこのシステムにログインしていただき、パスワードの変更、登録情報の確認、情報公開の可否を登録していただけますと幸いです。

今後、同窓会からのお知らせ等は登録いただいたメールアドレスに配信する予定ですので、メールアドレスをお持ちの方は必ずご登録下さいませようお願いいたします。もしお持ちでない方は、連絡がとれるご家族等のアドレスでも結構です。

WEB名簿システムは、同窓会ホームページ <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/> からご利用になれます。

# 同窓会ホームページをリニューアルしました



## トップ画面

- ✓ 重要なお知らせはこちらに表示されますので、パッと一目で分かりやすくなっています。
- ✓ メニュー欄の名簿システムボタンから名簿システムにアクセスできます。

## お知らせ

- ✓ 直近のお知らせ5つが表示されます。
- ✓ 大学からのお知らせもこちらから閲覧できます。

## 同窓会について

同窓会での活動を具体的に掲載しています。定例会はどなたでも参加できますので、同窓生と一緒にカフェ気分でお越しください♪

## 活動予定・記録等

- ✓ 同窓会の活動予定や活動記録を閲覧できます。
- ✓ 今までのふなかわらも全て閲覧できます。見逃し配信を要チェック！

## アルバム

同窓生で集まった際の写真などを掲載しています。懐かしいメンバーにWEB上で会いに行こう！

## お問い合わせ

同窓会に関してご不明な点やご要望等ありましたら、こちらよりお気軽にお問い合わせください。

スマホ対応もしています！  
今すぐHPをチェックしよう！！

東京理科大学 薬学部同窓会

検索



# 令和2年度同窓会通常総会報告

令和2年度同窓会通常総会は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、会場での開催を取り止め、令和2年7月16日～7月20日の期間で、メールによる書面表決を行いました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

- 第一号議案 令和元年度事業報告の件
- 第二号議案 令和元年度決算報告及び監査報告の件
- 第三号議案 令和2年度事業計画案の件
- 第四号議案 令和2年度予算案の件

## 第一号議案

令和元年度事業報告

1. 同窓会通常総会の開催 令和元年7月20日  
インテリジェントロビー・ルコ

特別講演会

「薬剤業務に基づく臨床研究の実践」

講演者：愛知学院大学

薬学部医療薬学科臨床薬物動態学講座

教授 松浦 克彦 先生 (25期)

「Pharmacy compounding services

- 薬剤師の根っこ」

講演者：静岡県立大学薬学部薬学科

臨床薬剤学 准教授

宮崎 靖則 先生 (24期)

懇親会

2. 同窓会会報「ふなかわら」第31号の発行  
令和元年10月4日
3. 地区交流会の開催令和元年10月13日  
第51回日本薬剤師会学術大会(下関)に合わせて、  
交流会開催 出席者は、40名
4. 新会員勧誘 資料を304名に送付 令和2年1月27日  
会費納入は、令和2年3月卒業生(57期)22名、  
大学院修了者 7名
5. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品(記念ス  
パーテル)を贈呈  
令和元年9月26日、令和2年3月17日
6. 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈  
→ 新型コロナウイルスの影響により開催中止の  
ため、贈呈なし
7. 同期会開催(3、4、5、6、12、18、19、24期)  
同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈(6、18、  
24期)
8. ホームページのリニューアル
9. ホームページのメンテナンス
10. WEB名簿システムのメンテナンス
11. 幹事会の開催 平成31年4月13日、令和元年7月20日  
定例会の開催 令和元年9月21日、令和2年1月18日
12. 正副会長会の開催  
平成31年4月13日、令和元年6月8日

## 13. 大学・理窓会関連

- ・薬学部キャリア教育(就職懇話会)開催への協力  
(令和元年7月6日)
  - ・医療薬学教育研究支援センターへの協力
  - ・理窓会「大村先生を訪ねるツアー」への協力  
(令和元年9月7日)
  - ・ホームカミングデー(理窓会)への協力  
(令和元年10月27日)
  - ・理窓会関連団体交流会(第7回)への参加  
(令和2年3月15日)
- 新型コロナウイルスの影響により、開催中止

## 第二号議案

収入の部		支出の部		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
同窓会費	2,160,000	人件費	619,811	アルバイト代
預金利息(ゆうちょ銀行)	15	通信費	13,262	さくらインターネット
預金利息(みずほ銀行)	38	雑費(内伏印刷費送費)	1,651,834	ふなかわら印刷費送(管理印刷)
預金利息(三菱UFJ銀行)	29	郵便代(宅配代も含む)	45,518	郵便代・宅配代
預金利息(三菱UFJ銀行)	385			
寄付金	43,000	講演会謝金	30,000	講師謝礼
		税金経費	68,908	会場費・機器使用料・研修シール代
総会懇親会参加費	315,000	総会懇親会費	306,480	
理窓会より総会祝い金	10,000	同窓会イベント作成、送付	125,478	
地区交流会懇親会参加費	273,000	卒業謝恩会祝金	0	新型コロナウイルスの影響で開催中止のため
		卒業記念品代	211,200	記念スパーテル320本
		次期費	29,808	事務課 お中元・お歳暮等
資産より繰り入れ	1,475,102	同期会協賛金	90,000	3期分(18期・19期・24期)
		地区交流会懇親会費	395,000	
		文具・事務経費	35,473	名刺代、振込料など
		ホームページ作成費	275,000	
		ホームページ維持費	67,000	ホームページ12月～12月
		WEBシステム維持費・新経費経料	142,800	ホームページ12月～12月・新経費・経料
		理窓会同窓会懇親会参加費	0	新型コロナウイルスの影響で開催中止のため
		理窓会ホームページ代	25,198	
		雑誌広告	6,000	同窓会会報1月号
		就職懇話会 謝礼12名	24,000	
		学会寄付金1件	30,000	日本医薬品安全性学会学術大会
		打合せ正副会長会、ホームページ	14,000	
		経費	50,000	送金2件(査察会費等)
合計	4,278,565	合計	4,278,565	
郵便局振替口座	865,198			
定期預金(三菱UFJ銀行)	4,531,070			
普通預金(三菱UFJ銀行)	1,851,870			
普通預金(みずほ銀行)	4,766,830			
ゆうちょ銀行	2,775,805			
現金	309,883			
	14,939,867			

### 第三号議案 令和2年度事業計画案

1. 同窓会通常総会の開催 令和2年7月  
→ 新型コロナウイルス対応により、書面にて採決
2. 同窓会会報「ふなかわら」第32号の発行 令和2年10月
3. 地区交流会の開催 令和2年10月10日  
第52回日本薬剤師会学術大会(札幌)に合わせて、交流会開催  
→ 新型コロナウイルス対応により中止
4. 新会員勧誘 資料を送付 令和3年1月
5. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品(記念スパーテル)を贈呈 令和3年3月
6. 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈 令和3年3月
7. 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈
8. ホームページのメンテナンス
9. WEB名簿システムのメンテナンス
10. 定例会の開催(令和2年4月、7月は、新型コロナウイルス対応により中止、令和2年10月、令和3年1月を予定)
11. 正副会長会の開催 (令和2年6月22日)  
→ 新型コロナウイルス対応により、オンラインで開催
12. 大学・理窓会関連
  - ・薬学部キャリア教育(就職懇話会)開催への協力 (令和2年7月11日)
  - ・薬学部60周年行事への協力(令和2年10月25日)  
→ 新型コロナウイルスの影響により、開催中止

- ・医療薬学教育研究支援センターへの協力
- ・理窓会「大村先生を訪ねるツアー」への協力(未定)
- ・ホームカミングデー(理窓会)への協力 (令和2年10月25日)  
→ 新型コロナウイルスの影響により、開催中止
- ・理窓会関連団体交流会(第8回)への参加(未定)
- ・その他

### 第四号議案

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	3,000,000	人件費(アルバイト代)	700,000
総会懇親会参加費	0	通信費(オンラインミーティング、ウイルスバスター)	30,000
地区交流会懇親会参加費	0	印刷発送費(ふなかわら)	1,700,000
		郵便代(宅配代も含む)	100,000
寄付金など	50,000	講演会謝金	0
預金利息	2,000	総会経費	0
		総会懇親会費	0
資産より繰り入れ	464,800	同窓会パンフレット作成、発行	130,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代(記念スパーテル)	300,000
		交際費(事務経費、お中元・お歳暮)	85,000
		同窓会協賛金(5期分)	150,000
		地区交流会懇親会費	0
		文書・事務経費	50,000
		プリンター経費	78,800
		ホームページ維持費	66,000
		WEBシステム(関連費(維持費60,000+初年度経費50,000))	106,000
		理窓会関連団体交流会懇親会費	10,000
		学窓等協賛金	0
		雑誌広告(理窓会)	10,000
		予備費	50,000
合計	3,516,800	合計	3,516,800

## 令和3年度東京理科大学薬学部同窓会総会について

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、来年度の同窓会総会につきましては、令和3年7月の開催を考えておりますが、今後の新型コロナウイルスの状況をみながら検討を進めて参ります。詳細は、随時、ホームページまたはメールにてお知らせいたします。どうぞご了承くださいませようお願い申し上げます。

令和2年10月

東京理科大学薬学部同窓会  
会長 上村 直樹

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>  
 【お問合せ】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局  
 278-8510 千葉県野田市山崎2641  
 東京理科大学薬学部内  
 FAX : 04-7121-4531  
 E-mail : [jimu@ridaiyakudo.gr.jp](mailto:jimu@ridaiyakudo.gr.jp)



## 第14期同期会開催延期のお知らせ

すでにお知らせ致しましたが、去る5月17日（日）に開催予定でした14期同期会は、新型コロナウイルスの蔓延状況及び緊急事態宣言発出を鑑み、インターネットを使った幹事会で話し合った結果、今年度の開催を延期することと致しました。

「4年に一度、オリンピック開催年に」ということで、本年で4回目を迎えるはずの同期会でしたが、残念ながらオリンピック同様、同期会も延期とさせていただきます。なお開催時期は来年5月以降を考えております。詳細

が決まり次第、改めてご連絡差し上げますので、楽しみにお待ち下さい。

また今回の延期に関し、労いの温かいお言葉やご寄付を寄せてくださった皆様、本当にありがとうございます。幹事一同、この場を借りて御礼申し上げます。

では来年お会いしましょう。

14期同期会幹事：岩崎修、会田保俊、野口茂、  
竹内恵子、谷口晶子

## 第15期同期会開催延期のお知らせ

理科大薬学部第15期生の皆様、6月6日に幹事会をWEBで開催、2020年の同期会は残念ながら来年に延期する事と致しました。皆様にはいつも同期会を楽しみにして頂いておりますが、我々も医療従事者ですので万一にもクラスターを発生する訳にも参りません！状況を見極めつついつの日か皆様には会える日を楽しみにし

ております!! ご不明な点が有ればFBのmessengerでご連絡下さい。

フェイスブックのURLは以下になります。

<https://www.facebook.com/rikadaiyakugaku15/?fref=ts>

幹事：日向章太郎、高橋正史、菅原伸治、和田浩志、  
長谷川富喜子、谷口隆雄、伊佐治正幸

## 第16期同期会開催延期のお知らせ

皆様お元気にお過ごしのことと存じます。

さて、本年10月24日（土）に開催を予定しておりました第16期同期会の件、1年延期とさせて頂きたくお知らせ申し上げます。東京を中心とするコロナ禍が収まらず、同期会を東京で開催した場合の感染リスクが心配されること。Zoom同期会なども検討しましたが、やはり、Face to Faceで皆さんと一同に介し歓談したい、との声が多かったことが延期の主な判断理由です。

来年の同期会も以下の同期会幹事で企画し、コロナ感染もコントロールされ、元気な皆様にお会いできますこ

とを願っております。

時節柄、くれぐれもご自愛されますように。

薬学部第16期幹事一同

【薬学科】石川弘、大谷（山崎）佳子、  
武田（服部）直子、水倉（荒西）美恵子、  
室橋（清水）宏子

【製薬学科】石毛徹夫、河部秀男、塩入淳一、富塚朋子  
アドバイザー：遠藤健治、田畑新



## 2019年度地区交流会報告

2019年度の地区交流会が日本薬剤師会の学術大会に合わせて実施されました。その参加報告をいたします。会場は下関で有名な春帆楼（しゅんばんろう：日清戦争の講和条約の会議が行われた場所）にて行われました。同窓会会長の上村直樹教授から乾杯の挨拶の後、下関のふぐを中心とした料理をいただき参加者は皆満足されていました。今回は特別に理科大の同窓生以外に山陽小野田市立山口東京理科大の教員の皆様も参加され、理事長

の池北先生から大学創設の経緯や現状について報告を頂きました。

今回の出席者は40名で、毎回参加されている常連の学年幹事の方はもちろんですが卒業後まもない同窓生の方も参加され、非常に有意義であったことを報告させていただきます。

以上

30期 YS 水 八寿裕（みず やすひろ）



## 第4期同期会報告

令和元年（2019年）9月8日（日）PORTA神楽坂6F理窓会倶楽部において第4期同期会が開催されました。房総半島を中心に列島に大きな爪痕を残した台風15号の襲来間近で交通機関の計画運休が告げられる中、キャンセルもほとんど無く27名の同期生が西から北からと全国各地から集いました。ン十年ぶりに参加した旧友もおりましたが、いつの間にかタイムカプセルで半世紀前にタイムスリップし、直ぐに打ち解けて昔話に花が咲きました。近況報告を伺うと、出席者は元気な方が多いせいか、まだ現役で頑張っている方、退職して釣りや旅行、ダンスなどの趣味を楽しんでいる方、ボランティアに生きがいを見出している方など様々でしたがそれぞれが積極的に前向きに人生を送っている様子が垣間見えました。今年度中には全員が後期高齢者の仲間入りをしますが、来年も全員元気で集うことを約束し、嵐の前の静けさの中を帰途に就きました。

その日の深夜には台風が関東地方に上陸し、激しい風雨に襲われました。その後被害の詳細が明らかになるにつれ、その甚大さに驚かされるとともに、何事もなく同期会が開催されたのは奇跡的だったと改めて回想しております。

（和田、平尾）



## 第8期同期会（42年入学の会）報告

2019年10月19日、神楽坂PORTAの6階理窓会クラブで2014年11月から5年ぶりの同期会を開催しました。8期卒業時はちょうど大学紛争の時期だったため、当時の村上学部長が大学改革は進級制度からとしたこともあり卒業時期に差が生じた人が沢山出ました。そのため、42年入学の会としています。参加者は、病気をしたり、連れあいを亡くされたりと、年齢相応の出来事を抱えている方が多くいらっしゃいましたが、皆様お元気でした。全員70歳を超えて年齢相応に年金生活かと思いきや、多くの方がまだ仕事をお持ちでと言うより、医療界の人手不足が反映してか、辞めるに辞められない方が多くいらっしゃいました。遠く九州から見えた方は、土曜は薬局を開局しているので普通は出席できないんだけど、無

理矢理、部下に任せて、来たと言うことでした。一方、今までは仕事の関係で出席できなかったのが、やっとリタイアできたので、出席が可能になったという方もいらっしゃいました。皆さん、色々都合を付けて出席して下さいました。でも、都合を付けてでも、旧知の人達に会いたかったんですよねって、自分も含めて思いました。それにしても、男女ともに年相応の方は少なく、皆様、若々しくしていらっしゃるのにはびっくりさせられました。会は個人個人の近況報告も交えて、和気あいあいで、学生時代の気持ちに少し近づきなごやかに終始しました。今回は、最後になるかも知れないと予告しておいたのですが、継続して開催して欲しいという要望が強く、次回の幹事を神奈川県二宮町にお住まいの宮戸



利明さんが引き受けてくれることになりました。神奈川県在住の方はご協力の程お願い致します。今回の幹事は小暮眞一郎さんと小田（旧姓：安田）文子さんが担当し、ちょっとだけ私、松岡が手伝わせて頂きました。次回、またお目にかかれることを念じて筆を置きます。

（文責：松岡 隆）

## 第3期同期会報告

還暦をはじめ節目節目に開催してきた第3期卒業生の同期会は、今回は喜寿（77才）の節目ということで、文京区湯島の東京ガーデンパレスで10月26日（土）午後1時から開催されました。前回の薬学部50周年記念同期会は48名の参加者がありましたが、今回は29名と大幅に減りました。

年は、台風15号、19号、そして同期会前日には千葉県から宮城県にかけての記録的な豪雨災害で開催自体が危ぶまれましたが、当日は朝から久しぶりの好天に恵まれました。北陸新幹線もようやく再開されましたが、千葉県の鉄道は不通が続きようやく高速バスで駆け付けた友

もありました。

卒業したころは、皆紅顔の美少年美少女であった同級生ですが55年もすると、髪も白くなり体形もかなり貫禄がついてきましたが、話すうちに時間はどんどん巻き戻され、共に学んだ頃の顔に戻ってまいりました。

「年なのだから少し高くても、ゆっくりと美味しいものを食べたい」との希望もあり着席で和食の会になりました。

土曜日の早い時間の開催であったために、広島県から参加された方は懇親会のみで帰られましたが、他の皆様は同ホテルの2階のバーに移動し、2時間ほど二次会を楽しみました。それでもまだ名残惜しくて三次会まで行かれた方もあったようです。遠いところでは福岡県から飛行機で駆け付けた方、出張先の富山からようやく開通した北陸新幹線で駆け付けた同窓生もありました。次は80才傘寿の会を約束して散会しました。

幹事：青木、今関、奥貫、金親、倉石、鈴木、富田、星野、渡邊

文責：金親



## 第19期同期会開催報告

さる2019年10月27日（日）、19期同期会を開催できました。現在の状況では、実感を持って「開催できました。」という状況ですね。

会場はとみにおしゃれになっている神楽坂で、「紀の善」脇の小道沿いの「フロマティック」、ラクレットチーズが楽しめるお店です。おしゃれなお店にしたこともあり23名の皆さんの参加をいただきました。初参加の方も



居て、気分は学生時代に戻り、旧交を温め、また、近況報告や趣味のお話等にも花が咲きました。お料理も、前菜、ラクレットチーズ、チーズフォンデュ等、もちろんワイン等アルコールも満喫しました。また、開催できたらと思っております。なお、集合写真では、お一人、お仕事の都合で遠方の方が途中でお帰りになり入っておりません。申し訳ありません。

ちなみに、当日は東京理科大学ホームカミングデー。薬学部同窓会の交流部屋にも、同期会に先立ち、時間が取れる有志で伺い、楽しい時間を過ごさせていただきました。0次会として、アルコールも少々。今後も同窓、同期との交流の機会として利用したいものですが、残念ながら、2020年度のホームカミングデーは中止となっています。

最後に、19期では、入学時に机を並べていました皆様へも連絡をとっております。この記事がお目にとまりましたら、今後の同期会開催、交流のため、同窓会事務局経由でも結構ですので、ご連絡をお願いいたします。

19期幹事一同（文責 小嶋）

## 卒後50周年記念、第6期同期会報告

2019年11月24日（日）12時から、卒後50周年を記念して、市ヶ谷のアルカディアで6期生の同期会が開催されました。理窓会主催の卒後50周年のイベントが1ヶ月前に開催され、25名程度が参加されたため、欠席という方もいて、参加者が少なかったようです。毎回参加者が減る一方で、今回限りと考えていましたが、幹事役を引き受ける人がいて、今後も開催することになりました。

28名（女性22名、男性6名）が集合し、全く初めての参加という方もいて、近況報告や、昔話に花を咲かせました。薬剤師として現役でまだ働いている人もいて、薬学部が6年生になっても、薬剤師の仕事は変わらず患者さんとのコミュニケーションであると、その役割を追及している話を聴き、企業を退職し、異なる分野で活動している我が身にとり尊敬の念を感じた次第です。学生時代に戻って、50年前にどんなこ

とをしていたとか、その後の生活について、いろいろな経験談を興味深く聞きました。いまや同期会に参加できることが、幸せと感じる年齢になってしまったことを痛感した次第です。自立した女性が多く、さすがに何らかの形で社会とつながっている人が多いようです。

（藤井幸子 記）



## 第18期同期会報告

2019年11月23日（土）に湯島のイタリアン「Bistro GRASSO」にて18期同期会を開催いたしました。

6年ぶりということもあり35名の方が出席し、大学時代のことや近況などを語り、楽しい3時間を過ごすことができました。皆還暦を迎えていることもあり、再就職、老後、孫の話が多かったようです。

一人ずつの近況報告では、在学中には思いもつかない

ような意外な一面を披露する方も多く、大いに盛り上がりました。

多くの方が第一線を退いたこともあり、同期会を毎年開催しようということになり、今年は11月22日（日）を予定しています。前は同期生約200名のうち63名の方と連絡が取れませんでしたので、連絡の来なかった方は、同窓会事務局までご一報ください。

また、卒後5名の方が逝去されていまして、ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

皆さまと次回元気で会えることを楽しみにしております。

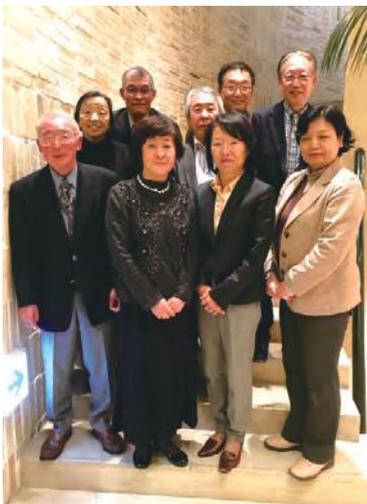
文責 大山邦之



## 第12期同期会報告

2019年12月14日（土）東京理科大学所属アグネスホテル&アパートメント東京\*にて12期同期会を開催いたしました。年末でご参加頂けた方は少なかったのですが、理科大所有の素晴らしいホテルでとても優雅に楽しい時間を過ごすことができました。皆様そろそろお仕事が一段落してきているようでした。鹿児島での再会を約束し

たのですが、新型コロナの影響で鹿児島での同期会はまだ開催できていません。「日常」が戻ったらまた同期会を開催したいと思います。人とウイルスとの闘いはずっと続きますが、今回のウイルスは今までと少し違うような・・・でも、負けずに頑張りましょう。薬剤師としてできることを！（記：金澤 幸江）



## 薬理学同門会報告

令和元年11月9日（土）に薬理学同門会が東京駅近くの日本工業倶楽部で行われました。薬理学担当教授としては、加来天民学部長、久保田和彦学部長、小野秀樹教授、岡淳一郎教授と続いて平成29年4月に斎藤顕宜（あきよし）教授が着任されました。薬物学教室、薬理学教室、薬理学研究室と組織の改編はありましたが、同じ系列の研究室の卒業生が一堂に会する同窓会は理科大薬学部の中で薬理学研究室が唯一ではないかと思っています。今回は、斎藤顕宜教授の着任祝い、岡淳一郎教授の退職祝い、同門の小茂田昌代教授（医療安全学研究室）の退職祝い、それと高木敬次郎元学部長（薬物治療学教室：先生がご在職の間は兄弟研究室として一緒に行動した）が平成29年1月に、久保田和彦元学部長が同年3月に逝去されたので、追悼のためと多彩な目的をもって開催されました。

会は次のように進行されました。まず、4期で今回出席の最長老の勝原徳寛さんが開会の挨拶をした。日本薬剤師会の磯部総一郎さんが斎藤先生を迎えての祝辞をした後、斎藤先生のご挨拶と山田大補助教と研究室学生の紹介があった。小野秀樹先生から、体調を壊したため名古屋市大へ転職した経緯のお話の後、先生の音頭での乾

杯をし、しばらく歓談した。久保田和彦先生と高木敬次郎先生のビデオが流される中、元日本薬剤師会副会長の寺脇康文さんが両先生の思い出を語った。アステラスの谷口圭一さんが岡先生に感謝の言葉を述べた後、岡先生がご挨拶され、鎌仲真理子さんが花束を贈呈した。前田初代さんが小茂田先生に感謝の言葉を述べた後、小茂田先生がご挨拶され、松岡隆（最初の卒研生が小茂田先生）が花束贈呈した。斎藤先生には相川弥生さんが花束贈呈をした。今回の会の発起人の早乙女秀雄さんが閉会の辞をした後、記念撮影をして会は終了した。豊富な内容のため2時間半は慌ただしかったが、場所も良く、良い会だったと感じます。同門卒でない旧教員では、小野秀樹先生、青木靖子先生、砂金信義先生、岩井孝志先生、濱田幸江先生、恒岡弥生先生が出席されました。招待者3名、学生8名を含め、参加者73名で、少し、寂しかったが、まずまずの会だったと思います。薬学部唯一の研究室同門会を続けるためにも、今後とも同門生のご協力をお願いします。

（文責：8期 松岡 隆）

連絡先：yutaka.m7505@gmail.com



◀ 3期～23期



◀ 24期～岡研2010年入室者



岡研2011年入室者～現4年生▶

## 退任の挨拶

東京理科大学薬学部薬学科  
医療コミュニケーション学研究室 後藤 恵子



2006年、薬学にコミュニケーション教育を根付かせたいという思いで本学に就任致しました。製薬会社に入社した私がコミュニケーションに関心を持ったのは、自己の20代の罹病体験にあります。当時の医療設備・環境、医師のコミュニケーションに疑問を持ち、いつか患者主体の医療に役立ちたいと思い、30歳で企業アイデンティティを再構築する会社に入り、社会的価値の創造過程をプランナーとして学び、38歳で、「人、その人らしく」を掲げ起業しました。その頃、筑波大学宗像恒次先生（現名誉教授）が「医療人の3%がカウンセリングマインドを持てば医療が変わる」とヘルスカウンセリング学会を立ち上げられると聞き、参加致しました。この学会での

学びのすべてが私のコミュニケーションに関する基礎となりました。

本学においてはアクティブラーニングのプログラムを手探りでありながらいくつも作りました。6年制の学生気質が変化したこともあり、頭はいいが、コミュニケーション力が弱いという理科大生のイメージもだいぶ変化したように思います。どのような仕事に就いても薬を使う人の気持ちや生活に思いを馳せることのできる人であって欲しいと願います。学生とともに行う研究もとても楽しく、14年間という時間はあっという間に過ぎ去りました。支えて頂いた先生方、事務の方々、学生の皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。

## 退任の挨拶 「薬学部の定年を迎えて」

東京理科大学薬学部医療安全学研究室 小茂田 昌代



皆様にはいつも大変お世話になっております。  
さて、このたび2020年3月31日をもちまして、東京理科大学薬学部を定年退職いたしました。14年余りの長きにわたり同窓会の皆様方には、格別の御指導と御鞭撻により、何とか無事に定年を迎えることができました。ほっとする思いと同時に学生との別れの寂しさをひしひしと感じております。思えば14年前、大学に移動したと同時に米国のMDアンダーソンがんセンターやヒューストン大学薬学部に行く機会を得たことが、何よりも私の人生の大きな転機になりました。そのおかげで、日本の薬剤師は米国に追いつき、基礎と臨床の両輪基盤のある本

学の薬学部は、米国の薬剤師以上に独創性のある人材を養成できるという将来像を描くことができました。そして、2018年度には基礎薬学を臨床に活用し、医師の処方最適化するための考え方を学ぶ「アカデミック・ディテリング基礎演習」というオリジナルの授業と神楽坂の医療薬学教育研究支援センターでは、「アカデミック・ディテラー養成プログラム」を立ち上げることができました。今後は教え子たちの成長を楽しみにしながら、同窓会の皆様とは今まで以上にお時間を共にできることを楽しみにしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 退任の挨拶

資源植物化学研究室 和田 浩志



1983年に本学薬学部へ赴任し、この3月に定年退職しました。思い起こせば37年という本当に長い勤務でしたが、その実感は湧いてきません。というのも、企業に勤

めていた場合とは異なり、大学の研究室では毎年新たな学生を迎え入れ、学生とともに真摯に講義・実習や研究を行ってきたからだと思います。年月を積み重ねたとい

うより、気がついたら37年が経っていたということです。

植物化学研究室の村上孝夫教授のもとで、シダ類の成分と化学分類に関する研究を行ってきました。学生時代から植物そのものに関心があったため、薬用植物学の実習や講義を担当するようになってからは、乾燥した植物の成分研究よりも生きた植物の研究に方向転換し、現在の薬草栽培につながっています。その間、学生を直接的

に指導するというより、自然から学ぶという謙虚な姿勢で講義や研究を続けてきました。本学の真面目で優秀な学生からいろいろなヒントをもらうことができ、その点で貴重な経験を積み重ねることができました。

東京理科大学の先生方や学生のみなさん、そして同窓の皆様にご心より感謝申し上げます。東京理科大学と同窓会の更なる発展を祈念しています。

## 新任の挨拶

感染分子標的学研究室 野口 耕司



令和2年4月1日付で感染分子標的学研究室に着任しました、野口耕司と申します。歴史と伝統のある本学の教員に加えていただき、大変光栄に存じます。

私は福井県立藤島高校から東京大学薬学部を卒業後、同大学院で博士課程を修了しました。国立がんセンター研究所、国立感染症研究所、米国NIH留学を経て、2007年に共立薬科大学准教授に転じ、それから6年制薬学教育を勉強してきました。研究分野はウイルス感染症やがん分子標的薬、教育分野は微生物学や化学療法学になります。

私の研究教育活動の原点は、「くすりで病気を治せな

いか？」という思いです。この原稿を書いている今は、歴史に残るCOVID-19の世界的大流行の真ただ中です。新型インフルエンザの時も今回のCOVID-19の場合もそうですが、「特效薬はないのか？」と問われました。治療薬があるのか無いのか、ということは医療戦略上大変重要なポイントであり、薬学の社会的責務が大変重いことを痛感します。本学では優秀な学生諸君の成長に尽力し、本学の益々の発展に貢献していく所存です。微力ではございますが、同窓会の皆様におかれましては、何卒ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

## 新任の挨拶

天然物化学研究室 安元 加奈未



4月より天然物化学研究室に講師として着任いたしました安元加奈未と申します。講義は天然物化学・薬用植物学・スペクトル解析・天然物薬品学（半期）を担当いたします。前職では、徳島文理大学香川薬学部生薬天然

物化学研究室内の助教として、薬用植物由来のリーシュマニア症治療薬の開発研究に従事しておりました。熱帯感染症であるリーシュマニア症は、マラリアと並び非常に感染者数が多い病気ですが、貧困



地域での流行や、治療薬がない病態があることから「顧みられない熱帯病 (Neglected Tropical Disease; NTDs)」と呼ばれます。私は現地の植物から治療薬シーズを見出すべく、ペルー、ミャンマー産植物から抗リーシュマニア活性を有する天然有機化合物を探索し、活性化合物が原虫に与える影響や機能を検討しています。本学でも積極的に取り組んでいる持続可能な開発目標SDGsのゴールの一つである「すべての人に健康と福祉を」に貢献するべく、薬学教育研究に邁進する所存です。微力ではございますが、本学の発展に尽力してまいりますので、同窓会の皆様には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# ホームカミングデー 2019に出席して

2019年10月27日神楽坂キャンパスで開催された「ホームカミングデー2019」に薬学部同窓会として出席してきました。今回は、8号館5階に薬学部同窓会として1教室を独占するという大胆な企画で臨みました。当日は、理窓会からのおつまみ&お酒のプレゼントがあったのですが、さらに26期の若松さんオススのワインを揃え、皆さんの来場をお待ちしました。写真を見てください。この参加して下さった方々全員の楽しそうな笑顔！ 2019年は大いに盛り上がりさせていただきました。写真撮影の前には、

池北先輩（現山口東京理科大学理事長）も顔を出してください、非常に有益な場を皆で共有することができました。

残念ながら2020年のホームカミングデーは中止となりましたが、来年またこのような出会い・ふれあいの場を設けることができればと思います。より多くのOB&OGの方々との交流の場所になればと切に願っております。

（記：伊集院 一成）



## 近況報告

国立大学法人 東京農工大学 副学長  
工学研究院教授・女性未来育成機構長  
宮浦 千里 (薬・製薬 15期)



東京理科大学薬学部製薬学科を卒業して、アカデミアにおける教育研究の道に進みました。このたび、第111回東京理科大学理窓会新年茶話会にて、母校の名誉ある賞「第22回坊っちゃん賞」をいただき、心より御礼申し上げます。懇親会では、薬学部の先生方や卒業生の皆様とお会いできて、楽しいひと時となりました。この受賞は、これまでの自分をふり返る機会にもなりました。

4年生の卒業研究では、守屋教授にご指導いただき、カリクレインに関する生化学的研究に取り組みました。進学か就職かを考えていた折に、守屋先生から、当時、東京医科歯科大学歯学部におられた、恩師である須田立雄先生を紹介いただきました。昭和大学歯学部の新設において、須田先生が口腔生化学講座を開設させることで、教育研究職としてお世話になることになりました。

東京理科大学薬学部を卒業後、昭和大学歯学部の助手として勤務しながら、薬学博士号(東京理科大学)を取得、その後、米国テキサス大学へ研究員として留学、昭和大学講師、東京薬科大学助教授を経て、東京農工大学工学部教授に着任しました。ビタミンDの分化誘導作用を発見して、一連の研究成果をまとめて薬学博士を取得しました。米国留学では、当時3歳の娘を連れて留学、増殖因子のクローニングに取り組みました。帰国後は、骨粗鬆症の発症機構の解明と治療薬の開発、がんの骨転移を阻害する薬剤開発に寄与し、骨代謝疾患の治療薬の開発と予防因子の解析を進めました。東京農工大学工学部の教授に着任後は、新しいラボを立ち上げ、骨粗鬆症や歯周病の予防・治療薬の開発、癌の治療薬の研究開発を進めています。リウマチなど、炎症を伴う骨破壊には、プロスタグランジンEとその受容体サブタイプEP4が関与することを見出し、炎症と骨代謝の関連を示しました。こ

のカスケードは、骨破壊を伴う癌の骨転移にも関与することを明らかとしました。原著論文や総説の執筆の一方で、大学院生の指導によって薬学博士・工学博士・生命科学博士を輩出してきました。

また、副学長として大学運営に取り組み、2016年、責任者としてグローバルイノベーション研究院を設置し、海外から有力な研究者を雇用・招へいするシステムを構築、先端研究のグローバル化と国際共同研究を推進しています。教育・研究・入試・産学連携・国際連携・組織運営、と大学は仕事が多いのが現状で、好きな研究だけに集中できる環境ではないのが現状です。

理系の大学院博士課程修了学生のうち、博士前期(修士)課程修了者の多くは企業へ就職します。研究室における研究活動で養った研究力や調査力・コミュニケーション力はその後の企業における活動に大いに活きていると思います。研究室の学生には、常日頃から「自分のポリシーを大切に、失敗を恐れない、思い通りにならないのが、研究の醍醐味」であり、「研究を楽しむ環境に飛び込み、ひたすら研究に邁進する時期を大切にすることが重要」だと話をしています。私自身、研究室の仲間とディスカッションをしながら研究に没頭し、多くの研究成果を出せたことは、大きな財産となっています。

文部科学省では、科学技術学術審議会委員として人材委員会委員長等を担当、わが国の人材養成の政策立案に従事しています。特に、理系の女性研究者の活躍推進に向けて、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業の委員長を歴任し、全国の大学や研究所などの機関をつなぐ全国ネットワーク構築に取り組んでいます。女性研究者の活躍推進は、世界レベルの教育研究活動を進めていく上で、わが国の最も重要な施策の一つとして位置づけられています。PI(研究室の主催者)の女性研究者が少なく、ワークライフバランスの環境支援が求められています。薬学部は女子学生が多いですが、将来、各職場で指導的立場となる人材を増やす必要があると思います。東京農工大学では、女性未来育成機構を設置して、機構長として女性研究者のライフイベント支援・環境整備・採用推進・研究力強化を図っています。多様性溢れる人材が活躍できる環境は企業・医療機関・教育研究機関において共通のテーマだと思います。



授賞式集合写真(前列左から二人目が筆者)

# 近況報告



アンサングシンデレラ医療原案作成者 富野 浩充 (37期)

「なに言ってるんだ、お前より下の成績のやつは留年だよ」  
5号館の前で石坂先生にそう言われて、ぎりぎり4年で卒業することに成功してから20年、劣等生だった自分がこんなところに書くことになるとは思ってもいなかった。

卒業後からドラッグストアや街薬局勤務を経て病院薬剤師をしているが、一方で文章や物語を書くのが好きで、日経DIをはじめ記事を書かせていただいていた。そこで書いていたものがコミックゼノン編集者の目に止まって、日本初（おそらく）の病院薬剤師漫画「アンサングシンデレラ」の医療原案をやることになった。臨床薬剤師中心とは思われるが、おかげさまで評判もよく、執筆時現在で第5巻まで単行本が発売されている。更に2020年初頭に映像化が発表され、インタビューやら原稿依頼やらが増えており、なかなか時間を取られるようになったが、これはこれで充実している。ちなみにドラマは4月から放映されるはずだったが、COVID-19の影響で7月開始にずれ込んでいるため、この原稿を書いている時点でまだ映像は見えていない。

さて、よく聞く「監修」でも「原作」でもなく「医療原案」という役名だが、主にストーリーの薬ネタ部分を考えている。ネームが出来上がってからチェックするのでもなく、ストーリー全部を考えているわけでもない。その中間、というところだ。

たとえば担当編集から、「次は産科で」などざっくりとした方向性を示され、合いそうなネタをいくつか返すと、編集さんと作者の荒井ママレ氏が相談しつつプロットを作ってくる。そこに合うような薬剤師の動きや思考を説明し、必要なら症例を見つけて荒井さんがストーリーを考えてネームを作る。それに対してセリフや動きの細かいチェックをし、最終的に原稿チェックをして、やっと本誌掲載となる。基本は編集さんを通して荒井さんとやり取りをしているが、すんなりいくこともあるが、何度もやり取りすることもある。難産した回もあるが、さすがプロだなあ、と思うストーリーが毎回出来上がってきて、自分の未熟さが思い知らされる。



私は高校の進路指導で、物書きになりたい、と言っていて、理科大に通っていたころにも、文章書きになりたい、と言っていた。傍から見た

ら薬学部に入ってまでそんなことを言っているやつは頭がおかしいんじゃないかと思うが、そもそも文章書きに必要なものは経験だと思っ



いたので、理系に進もうが問題ないと思っていた。当時併設されていた教職課程を取ったのも、文章を書く上で役に立つかもしれない、と思っていた（もちろん、職業選択幅を広げる目的もあったが）。大学卒業後、日々の業務に忙殺されてはいたが、高校の同級生で編集者になった人から「理系で文章を書ける人は貴重」という意見をもらってここまで続けることができた。近年では、ワクチンや遺伝子組み換え食品などはじめ、いたずらに不安を煽るだけでなく、科学的な考察・伝達ができる理系のライターが必要だと実感している。理科大にも、マスコミ関係に進む人材育成コースができてよいのではないだろうか。

ドラマ化が決まってから、「石原さとみに会った?」「田中圭の写真撮ってきて」「西野七瀬好きなんすよ!」と何人にも話を振られたが、残念ながら東京と静岡を行き来できる状況ではなくなってしまった。とはいえ、さすがテレビの影響は大きく、全然知らない人からも声をかけられるようになった。ドラマに関しては台本をチェックしているだけだが、原作とは設定も内容も違ってオリジナルストーリーも多いので、テレビを見て何かが芽生えたら、ぜひ原作も手に取っていただきたい。二度楽しめる、のではないかと期待している。というか原作が売れば続けられるので買ってくださいます。薬剤師の地位向上のためにもよろしくお願ひします。



ネーム段階

完成原稿

ストーリーだけでなく、こういった細かいセリフの穴埋めなども考えています。

## 星野先生ありがとうございました

第13期 堀江 淳子

星野先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

今から40数年前有機化学の苦手な私が薬化学教室に入り、オイルショック後の就職難の中、星野先生のお力で東京薬科大の渡部烈教授の研究室に就職させていただきました。薬学劣等生の私を先生は「雑用を一生懸命頑張れば大丈夫。」と背中を押して送り出して下さいました。

当時の先生の印象は物静かで研究一筋。同期の仲間達は、ゼミで学生達の疑問に真剣に向き合われる先生の姿と合宿での山登り、トランプ、缶蹴りにも全力投球!の姿が忘れられない思い出です。

卒業後も原先生とOBの皆さんが企画して下さいる様々

な会で先生とお会いする沢山の機会に恵まれました。いつお会いしても先生は髪が白くならただけで若々しくとてもお元気でした。昨年12月に先生から頂戴したお葉書には「スローな生活」で日々を過ごし、時々「かんぼの宿」の温泉に行っていますと穏やかな文章が綴られていて、深刻な病状でいらしたとはとても想像出来ませんでした。きっとお嬢様方のお力で闘病中も静かな心安らぐひと時を沢山持たれていらしたのではと思います。

今回同期の皆さんへの訃報のお知らせの返信で、当時の薬学女子に星野先生ファンが多数存在した事を知りました。先生とこの話題で盛り上りたかった。残念です。

## 浅川英男先生の思い出

24期 吉田 華代

私は臨床病態学研究室の2期生として浅川チームにて卒研のご指導をいただき、講義を受け、当時は薬剤師免許と併せて取得が可能だった臨床検査技師免許取得のご指導をいただきました。

病院薬剤師志望の私にとって、浅川先生の講義で何う臨床での専門のお話、卒研の合間に何う現場のこぼれ話はとても貴重なものでした。Windowsもネット検索もSNSもない時代に、メディアで取り上げられた疾患(AIDSや伝染病など)への率直なお考えを教えていただいたものです。

研究においては、研究熱心で笑顔が柔らかなドクター。

「研究というのは、大きな成果を狙いつつ、着実に結果を出せるものを継続して、二本立てでね、続けていくのですよ」とつぶやきつつ日々試料を電気泳動にかけておられました。

研究への熱意は生涯つづき、引退後も野田に移転した研究室でそのお姿が見られました。

一方で、モダンで洒落たお人柄であられ、

研究室の合宿やイベントでは意外にも熱い一面を見せられたことも懐かしく思い出します。

研究室の休憩室ではお好みの厚めのトーストなどを召し上がりつつ、集まってきた若者の恋バナに頷きつつ耳を傾け、その雰囲気にもまれて恋の秘密を洗いざらい話してしまった若者達がありました。皆倅せな中年になっています。

お孫さんが生まれたとき、「痛くないわね、目にいれても」と目を細めて微笑まれたお顔は今も鮮やかに思い出されます。

心よりご冥福をお祈りいたします。



1986年秋の学会 ポスターセッションに参加された折りのもの

## 恩師山川浩司先生との思い出

西谷 潔

2019年年末(12月29日)にお亡くなりになりました。最近はお目にかかる機会もありませんでしたが、お手紙では近所の図書館で読書や薬学史の執筆をされ、お元気にお過ごしのご様子でした。昨年末はご返信が無く心配していたところ、先生の訃報を受け取り愕然といたしました。

先生の業績については学生部長、薬学会教育賞、薬学6年制に係る委員長、など枚挙に暇がありません。定年後は日本薬史学会会長としてご活躍され、また、文章を書くことは生涯続けられ多くの出版物を残されました。とにかく時代の先読みと行動力には全く脱帽でした。

山川先生と初めてお目にかかったのは実は大学受験の

試験会場でした。ひげを蓄えた監督の先生で、まさに教授の風貌でした。

私は有機化学が勉強したくて理科大学に入学しましたが、まずは梅沢先生の難しい授業のパンチで独学を決め、山川先生の授業は分子模型や研究室の研究成果の話しか記憶にありません。3年生の夏休みに山川先生の紹介で理研の有機化学研究室（田原先生、中田先生）にアルバイトとしてお世話になったことが縁で薬品製造教室に卒研生として入り、初めて直接の指導を先生から受けることとなりました。日々の指導は故坂口先生でしたが、研究テーマは山川先生のデカロンやサントニンの立体化学で、本当に様々なことを教えていただきました。その後大学院修士課程、研究生、助手、講師として先生のご定年までの20年余り大変お世話になりました。その後もシメジゲン特許紛争問題、機器分析の歴史などの論文の共著者に入れていただき本当に長いお付き合いでした。実質自分の父親よりも長い時間をご一緒に過ごしたのかも

しれません。先生との思い出は尽きることが有りません。学生達を真に愛し、大学院生の間では密かに「やまちゃん」と呼ばれ、威張ったことも怒ったことも見たことがありません。テニス大好きで合宿旅行では朝早くから楽しんでおられました。

学会がらみでよく旅行をしました。弘前大学での学会、ハワイでの学会などなど二人だけの旅行も結構多かったのを記憶しています。相部屋宿泊が多かったですね。交友関係も多彩で今は亡き辰野先生、理研の田原先生や慶応薬化研出身の諸先生などあちらの世界で酒を酌み交わし、わいわい楽しくやっておられると思います。「海ゆかば〜」などを歌いながら。ご冥福をお祈りいたします。

甚だ私的な思い出話となってしまいましたがご容赦下さい。大好きだった卒業生達との会を生前に開催できずに今日に至ってしまったことが心残りです。新型コロナ騒ぎで、忍ぶ会も開催ままならず残念ですが、卒業生各位の思いが届きますように。

## 片山 敬先生のご逝去を悼む

元薬学部教授 深井 文雄

東京理科大学教授 片山敬先生が2020年3月19日にご逝去されました。92歳のご生涯でした。

私が片山先生と最初にお会いしたのは、先生が東京都臨床医学総合研究所の消化器病研究部で研究部長としてご活躍の頃でした。別の研究部でホルモン受容体研究の大きな壁を前に喘いでいた私には、こともなげに成果を挙げられる先生の研究グループのあり様は不思議な異次元の世界でした。そんな折りに唐突に、理科大学薬学部で新しい講座の立ち上げに協力しないかとお声をかけて頂きました。「理科大学薬学部臨床医学系の講座を創設する」との、当時としては先鋭的な構想でした。そしてその翌年、昭和60年（1985）に先生は薬学部薬学科に教授として着任され、「臨床病態学教室」をスタートされました。新講座には、東京医科歯科大学・検査部の浅川英男先生も教授として合流され、更に、理科大薬学部で生理学をご専門とされていた山口稽子先生が講師とし

て、また生化学教室で学位を取得した直後の長井俊彦先生が助手として、そして理学部出身で医薬学とは縁のない私も助手として末席に加えて頂きました。片山先生の包容力が窺われる多彩なメンバー構成となりました。出来立てのこの講座では、事あるごとに全員が集合して議論が戦わされましたが、専門を異にするメンバーが思うが俥に発言しながらも互いを尊重・補完し、目前の課題を解決して行くという雰囲気醸成されました。そんな中で育った三百名を超える弟子達が社会に巣立ち、医薬業界を牽引する活躍をしておりますことは、ご承知の通りです。先生が残して下さった自由闊達な空気は、本学薬学部の中に広がり、薬学教育・研究のあるべき「協働」の姿として、更に拡大し続けていくでしょう。

ここにあらためて先生のご遺徳をしのび、心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 寺田先生と寺田委員会

大島 広行・牧野 公子

寺田弘先生が理科大薬学部にて在職された時期は徳島大学ご定年の平成14年から新潟薬科大学大へ学長・理事長として赴任される平成24年度までの10年です。ちょうど薬学6年制への移行と野田移転による新生薬学部の誕生と続く激動の時代でした。赴任されてすぐ、「寺田委員会」が薬学部内で公式にスタートしました。理科大薬学部は理科大の一学部であるために「理科大基準」に従わなければなりません。とくに全国の他の薬学部、薬系大学で

採用されている教室制でなく研究室制を採用しています。同時に全国の薬系大学・薬学部とともに従うべき「薬学基準」があります。薬剤師国家試験に沿った薬学教育です。このような二つの基準に従うことが理科大薬学部の宿命です。寺田委員会がこの時期に薬学部のかじ取りとして重要な働きをいたしました。その時代に学部長を務めた我々二人もどれだけ助けられたかわかりません。もちろん、研究面でも寺田先生は大きな貢献をされ、

DDS研究センター長としてDDS研究を理科大薬学部の看板の一つに開花させました。この間に世界薬学連合から

表彰されておられます。最後にあらためて寺田弘先生のご冥福をお祈りいたします。

## 寺田先生の思い出

廣田 慶司

最初にお会いしたのは電話越しだったのを今でも覚えています。私が配属研究室選択で悩んでいたときに、マクロファージの面白さを説明して下さいました。それが切っ掛けとなり、寺田先生のセカンドキャリアである東京理科大学での薬効物理化学研究室1期生として、マクロファージを活用する治療法とは何か、特に肺胞マクロファージへの薬物送達を起点とした結核治療の可能性について研究させて頂きました。この出会いがご縁となり、博士課程、ポスドク、助教と寺田先生と10年以上同じ環境で研究を共にすることができました。寺田先生の教えがあったからこそ今の自分があると感謝しています。

当時から先生の教育方針は自由を尊重としたスタイルであったと認識しています。ただ、私自身未熟だったこともあり、与えられた研究テーマを中途半端に実行する程度で、ときには研究室をサボったりもするような状況でした。そんなときでも、先生はじっくりと私に向き合ってくれて下さり（もちろん厳しいお言葉を頂いた気はしていますが）、研究することの面白さ、その研究をするための基本姿勢を繰り返し説いて下さったのを覚えています。姿勢を正し、埃を立てずに歩く（スリッパの踵を床に当てない）ことは、寺田先生との生活の中で体に刻み込まれました。

生活の基本を叩き込まれて研究にもじっくり取り組む自立力が身につく、結核から始まったテーマは肺がん、慢性閉塞性肺疾患、口内炎と拡がって行きました。いずれも病態と免疫系との関係を理解し、drug delivery技術により免疫系を活性化させることにより、病気を克服できないか、というコンセプトの研究です。その過程では、様々な研究助成金を獲得され、インド、ブルガリア、カナダ、アメリカ、韓国、オーストラリアなど世界各国との交流を開拓し

ながら研究を発展させていかれました。私の世界観がもの凄いスピードでどんどん拡がって行ったのを今でも思い出します。

驚くべきことは、寺田先生はサードキャリアとして新潟薬科大学の学長にも就かれたことです。しかも研究への情熱は尽きることなく、この頃には新たに薬効心理学を提唱されました。臨床試験においてプラセボが一定の割合で効くのは何故か。この仕組みには脳が関与しているのではないかという仮説を元に、錯覚に見られるような脳が騙されるとき科学を考えることで理解していけるようになるのではないかと、ということでした。お忙しいところ、私と食事の時間に付き合ってくれ下さり、このような話を生き生きとしたお顔でお話しされていたのがまるで昨日のこのように思い出されます。

寺田先生とのお付き合いは東京理科大学に赴任されてからですが、年を感じさせずいつも全速力で教育・研究に取り組まれました。このような後ろ姿を見ることができたことは本当に貴重な経験で、今でも刺激を受け続けています。寺田先生の後ろ姿にいつか追いつくことを目標として、思い出をいつまでも心に留めておきたいと思います。

寺田先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



## 久留正雄先生を悼む

大学院 79 薬学研究科修了 小島 良紀（旧姓 川尻）

さる6月4日元東京理科大学薬学部教授久留正雄先生がお亡くなりになりました。

7年前に舌がんが見つかり、手術を受けられ、経過は順調だったのですが、その年の暮れに脳梗塞で倒れ、以後リハビリの生活を送っておられました。

先生は昭和10年、日本統治下のソウルのお生まれで、戦後日本に引き上げられてからは大変な苦勞をされ、苦

学して学問の道に入られたと聞き及んでおります。東京理科大学理学部を卒業、大学院を修了された後、薬学部の教職に就かれてからは一貫してフェロセンの研究に取り組まれ、スーパーフェロセノファンの合成をはじめ、多くの業績をあげられました。

久留先生に師事した者は皆、そのお人柄を敬慕し、門下であったことを誇りに思っています。我々は先生の背

中を見て、と言うよりも背中から発せられる指示、叱咤、激励をうけて実験をしていたような気がします。

先生のお言葉で、私が一番印象に残っているのは、師事して間もない頃、「私は化学が好きで、趣味みたいなものです」と申し上げたところ、「趣味じゃあ困るんだ

よね、仕事だから」と言われたことです。その後その言葉の意味を痛烈に思い知らされたのは言うまでもありません。

生前のご指導に心より感謝を捧げ、謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

## 久留正雄先生をしのいで

久留正雄先生のご逝去を上村会長のE-mailで知り大変驚きました。今から45年ほど前、私が山川教授の下で卒業研究をしたのは昭和40年の事でした。山川教授は当時の八幡製鉄（現新日鉄）の中央研究所で不純物を全く含まない純鉄の研究をされていたと聞いております。薬学部に赴任され教室のスタッフを編成され始めたのですが、その中に理学部の博士課程を修了された久留先生がいらっしゃいました。その当時北大の有機合成の研究室から赴任された坂口礼司先生が講師として、助手として久留先生と私、大学院生として2期卒業生の諸江さん、海野さんがいらっしゃいました。久留先生と諸江さんはフェロセンの合成研究、特に久留先生はその立体構造を当時としては珍しいNMRを使って研究をしておりました。私は一攫千金を狙って新化合物、あわよくば新反応を発見するという研究スタイルなのですが、コツコツとデータを積み重ねてゆく研究姿勢の久留先生を私は大変尊敬しておりました。その当時の研究室は、東大紛争もひと段落し和気あいあいとして大変良い雰囲気でした。のちに高砂香料総合研究所に勤務されることになる諸江さんは有機合成の名手でした。諸江さんと久留先生は大変良いコンビで、かたや実験の名手、かたやデータをじっくり見てまとめ上げるという全く異なる研究スタイルでした。

久留先生が研究のために使う有機鉄化合物のフェロセンを卒研生も含めて教室スタッフ全員で作ったのです

が、何人かは泊まり込みで作業することがしばしばありました。反応を待つ間（今では考えられないことかもしれませんが）実験室でバーベキューをやったりしてとても楽しい時間を過ごしました。今と違って大学は大変自由でした。実験のために泊まると届ければ自由に泊まれたものです。その後私は研究に行きづまり、健康を害して大学を去ったのですが、久留先生と過ごした数年間は私にとって忘れがたい年月となりました。

良き師久留先生のご冥福を心から祈り追悼文といたします。



山川研究室（昭和45年頃）後列左より、2番目が久留正雄先生、6番目が西谷潔先生、7番目が坂口礼司先生、前列左より、佐藤先生、山川浩司先生、金親肇さん

## 久留正雄先生を忍ぶ

山川先生の追悼文を書き終わったのも束の間、また悲しい知らせが届きました。久留正雄先生の訃報です。風の便りで体調がすぐれないと聞いておりましたが、再び元気な姿をみせてくれるものと信じておりました。今はあの立派な先生がいなくなってしまったという喪失感でいっぱいです。いい加減なところが無く厳格な先生でしたが、とても優しい、学生思いの先生でした。先生は有機金属関係の研究で、私はテルペンの研究で、学生ときは部屋が離れていましたので接する機会は少なかったのですが、助手になってからは同じ部屋になり大変お世

西谷 潔

話になったことが思い出されます。何かと気を使っていたが本当に感謝しております。あの優しい笑顔が二度と見られないことが残念でなりません。天国でゆっくり好きなお酒を飲みながらお休みになりますように。



# 研究室紹介

## 分子医科学研究室



分子医科学研究室 秋本 和憲 (28期)

28期の秋本です。東京都出身。私立錦城高校卒業。1987年に本学薬学部薬学科に入学、1991年に同卒、大学院（修士と博士）も本学薬学研究科に進み、1996年に学位を取得し卒業するまで、本学薬学部で青春時代の大半を過ごしました。研究室は生化学教室（故守屋先生と田沼先生）です。大学院修了後、横浜市立大学医学部に奉職し、医学部生や看護学部・看護専門学校生の教育・研究に携わりました。2012年に母校薬学部生命創薬科学科（4年制）に縁あって戻り、あっという間に丸8年が経ちました。この間、学生時代にお世話になった先生方も次々と退職され、気がついたら自分もベテランになり、先達から伝わってきたバトンをいよいよ引き継いでいく立場になりました。この8年間を振り返りますと、目の前のことをただ一生懸命やり遂げることに汲々とした日々を過ごして参りました。それでも、6年制と4年制学科出身の多くの卒業生が研究室から巣立ち、大学病院、薬局、国家公務員、独立行政法人、企業（営業職、開発職、研究職、その他）や公的研究所等の様々な職場で頑張っております。特に今年は研究室を立ち上げて、初めて博士の卒業生を社会に送り出すことができました。また、在室の博士大学院生の中には日本学術振興会特別研究員（DC2）や長井記念薬学研究奨励支援に選ばれる者もでてくるようになりました。私立大学薬学部の研究室としては、博士の大学院生が多く、特に6年制学科出身者や女性の博士大学院生が多いことが当研究室の特徴です。このように優秀な学生さん達が集うようになり、研究室のレベルも少しずつアップしてきました。

当研究室では、乳がんを中心に①データサイエンス手法を用いたがんゲノムデータベース解析②がん幹細胞③がんの多様性の3つをキーワードに研究を進めています。その一端を紹介します。ご存知のように、近い将来、医療は平均化した治療法を患者に提供する従来型医療から、患者のゲノム情報や生活習慣など様々な情報（ビッグデータ）をAIなどで分析し、患者を特定の集団に分類（層別化）した上で、その患者集団毎に適した治療を選択して進める「精密医療」の時代に突入するといわれています。がん治療の場合、従来の乳がん、胃がん、膵臓がんなどのがん種別の分類とは別に、がん種は別でも共通した遺伝子に変異や変化がある患者集団に分けて、その集団毎に適した治療を進めることになるともいわれています。その先駆けとして昨年度から本邦でも「がんゲノム医療」が開始しました。このような時代背景もあり、将来の「精密医療」を見据え、それに対応できる人材の

育成を目的にデータサイエンスと実験を融合したスタイルで本研究を進めています。特に、本学はデータサイエンスの専門家が多く、ガチガチの実験屋出身である私はその恩恵を特に実感しています。また、本学は医学部が無いので、一次（生の）がんゲノム情報は入手しにくいので、公共のがんゲノムデータベースを中心に解析を行っています。この結果を主に臨床的意義づけとし、実験を因果関係の証明とし、相互補完的に研究を進めています（図1）。公共のがんゲノムデータベースのメリットは、学生でも自分のノートパソコン上で容易に解析できること、検体数が多い（乳がんだと1904検体）こと、多様ながん種のデータが揃っていること等です。逆にデメリットは、急速に改善されつつありますが、詳細な臨床情報を含まないことが多く基礎的な病理学的情報を中心であること、日本人のデータが少ないこと、生の検体ではないので実験には使えないこと、質の保証のあるデータがわかりにくいことです。最後のデータの質の保証に関しては、我々は、実験で因果関係を証明することで、結果的にデータの質の保証の担保になっていると聞き直して研究を進めています。

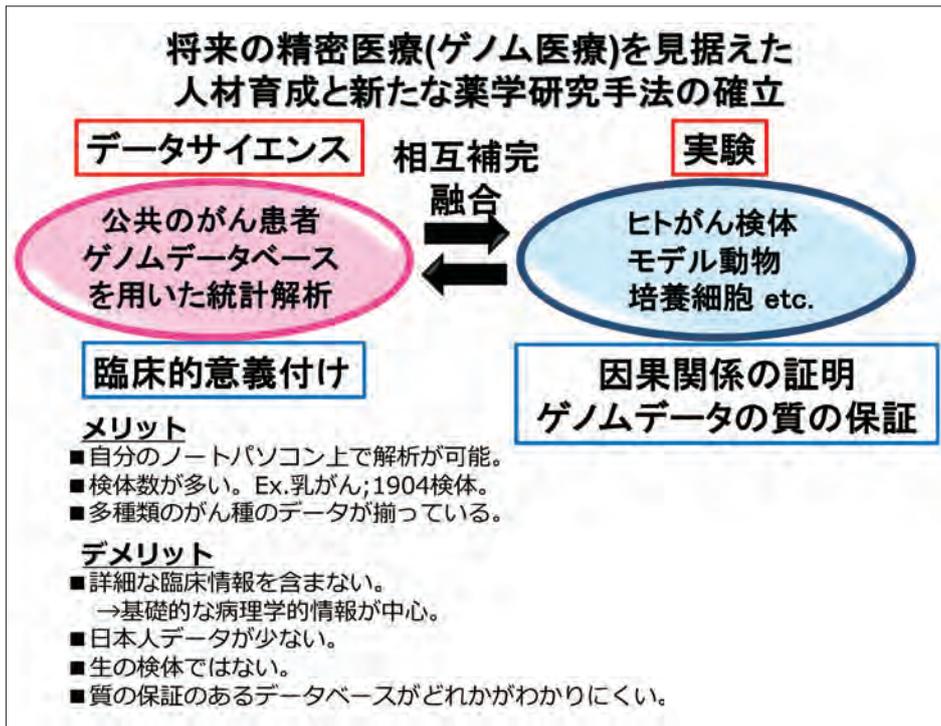
このような背景のもと、我々はTCGA Nature 2012 (n=593) およびMETABRIC Nature2012&Nature Commun2016 (n=1904) の乳がん患者ゲノムデータセットを中心に解析し、膜受容体型チロシンキナーゼc-Metとがん幹細胞マーカーALDH1A3遺伝子発現が共に高い患者が治療後の予後が悪いこと、かつc-Met阻害剤がALDH1陽性乳がん幹細胞の腫瘍形成を阻害することを明らかとしました (*Genes & Cancer* 2017)。さらに、このALDH1陽性乳がん幹細胞で働くc-Metの下流因子をデータサイエンス手法により探索した結果、様々ながん種で過剰発現し、過剰発現患者が予後不良であるPKC $\lambda$ を抽出しました。実際にc-Met、PKC $\lambda$ とALDH1A3遺伝子が高い発現を示す乳がん患者は予後不良であり、c-MetとPKC $\lambda$ の阻害剤はALDH1陽性乳がん幹細胞の腫瘍形成を阻害しました (*Anticancer Res.* 2020)。このことからc-MetとPKC $\lambda$ が共同的にALDH1A3陽性乳がん幹細胞機能に重要な役割を果たすことがわかりました。c-Metは様々な種類のがんで過剰発現や遺伝子変異が見つかっており抗がん剤治療の対象になっています。我々が調べた限りでは、乳がんでは、他のがんで検出されるc-Metの遺伝子変異は検出されず、今さらながらがん治療を考える上では遺伝子変異のみではなく遺伝子発現量も考慮することが重要であることを示すことができました。また、がん幹細胞

では活性酸素種 (ROS) の量が低く抑えられ、がん幹細胞の生存に有利に働いていますが、これにPKC $\lambda$ が関与することを明らかとしました。さらに、がんの多様性を生み出す機構の1つと考えられる乳がん幹細胞の非対称細胞分裂にPKC $\lambda$ が必須な役割を果たすことも明らかとすることができました (PLOS ONE. 2020)。

がん細胞はエネルギーや生体分子を獲得するために解糖系が亢進 (Warburg effect) しており、なかでも、がん幹細胞は非がん細胞よりも解糖系が亢進しています。我々はデータサイエンス手法を起点とした解析から、この解糖系の代謝毒性副生成物であるメチルグリオキサ-

ル (MG) の解毒酵素であるGLO1が、ALDH1A3陽性乳がん幹細胞の生存と腫瘍形成に必須であることを明らかとしました (Oncotarget 2018)。

今後は、抽出してきた上記分子がどのようにしてがん幹細胞性の維持に寄与するかについての詳細な分子機構を明らかにすることで、より有効ながんの層別化、診断マーカーや分子標的の同定を進めていきたいと思えます。さらに、このような研究活動を通じて、諸先輩方に劣らず優秀な人材が社会に巣立つのを後押ししていきたいと思えます。



# 恩師からのたより



砂金 信義

中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックが生じて、世界中の人々が苦難に喘いでおります。我が国においても非常事態宣言が出され、解除されたものの、未だに何かと制限された生活が続いており、一日も早いパンデミックの終息を願っております。

さて、私は、昭和47年に助手として採用されてから40年近く理大薬学に奉職いたしました。その後、他大学薬学部で5年過ごし、4年前にそこも定年となり、現在は有り余る時間を如何に過ごすかとあれこれ悩みながら毎日を送っております。そこで、これから、すなわち老後をどう生きるかについての雑感を述べさせていただきます。

## 「高齢者とは」

昭和22年から24年にかけて出生した世代を「団塊の世代」と呼ぶのだそうです。この世代が高齢に達する2025年には、医療・福祉、年金やらに問題を生じると懸念されております（これを2025年問題と呼ぶのだそうです）。私はまさにこの世代に属しております。ここで「高齢」と述べましたが、では何歳から「高齢者」とされるのでしょうか。少し調べてみますと、その線引きは曖昧且つ主観的なもののようです。令和の時代では受け入れ難いところでしょうか、還暦を以て、すなわち60歳を境目とする考えもあります。世界保健機構（WHO）の定義では65歳以上の人を「高齢者」としており、65歳で線引きしております。最近、運転免許書き換えの通知が届きましたが、高齢者講習を事前に受けるよう指示されました。ここでは高齢者は70歳以上としています。我が国の人口統計では、65～74歳を「前期高齢者」、75歳以上を「後期高齢者」としています。この線引きが広く用いられており、一般的であるように思います。勿論、「俺はまだまだ若い、高齢者とは呼ばれたくない」との主観的見解も受け入れましょう。

高齢者を「シニア」と呼ぶことがあります。これについても何歳から呼ぶのか明確な線引きはないようです。「ヤングシニア」、「ミドルシニア」などの語もあり、「高齢者」より幅広い年齢層を対象として用いられているように感じられます。この呼称は、「年長者」、「上級生」、「上級者」などの意味をもつ英語の「senior」を語源とし、「年をとった、年寄り、高齢の」といった年齢を強調した表現を避け、「より経験豊かな、前任の」といった意味を込めて用いられているそうです。「老眼鏡」と呼ばずに「シニアグラス」と呼べば何か優しい響きを感じ取れます。皆さんは如何お考えでしょうか。

## 「健康寿命」

昨年、厚生労働省から発表されました2018年の簡易生命表の概況によれば、男性の平均寿命は81.25歳、女性は87.32歳となり、比率は違いますが男、女とも前年の値を更新しています。今後さらに更新するのは間違いないところでしょう。この平均寿命から推計される90歳まで生存する確率は、男性で4人に1人（26.5%）、女性では2人に1人（50.5%）となると予想されております。また、厚生労働省のホームページの「人生100年時代構想会議」の記事には、2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きると推計されると記載されており、「人生100年」のキャッチフレーズは絵空事ではなくなってきました。私たちもこれに則して長いスパンで老後を考えなければいけない状況になっています。

WHOでは、「起床、衣類の着脱、食事、入浴などの日常生活がヒトの力を借りることなしに、自立した生活を送れている期間」を「健康寿命」とし、寿命の質を評価する概念を提唱しています。データは2016年のものですが、日本人の「健康寿命」は、男性は72.14歳で女性は74.79歳で、いずれも世界第1位でした。2016年の平均寿命は、男性は80.98歳、女性は87.13歳ですので、「平均寿命」と「健康寿命」の差は、男性8.84年、女性12.35年となります。この差は、日常生活に制限のある「健康ではない期間」を意味します。「健康寿命」が尽きてしまうと、本人が病気などによって苦しい思いをするだけではなく、看病や介護をする家族にまで肉体的・精神的に負担をかけてしまい、また医療や、介護にかかる費用負担も大きくなっていくことになります。「健康寿命」を延伸させて、平均寿命と健康寿命の差を短縮することは、個人の生活の質の低下を防ぐとともに、社会保障負担の軽減につながります。

厚生労働省では「平均寿命の延伸」を上回る「健康寿命の延伸」を図るべく健康寿命延伸プラン（健康日本21第2次）を掲げて取り組んでおります。そのプランの1つとして「フレイルの予防・改善」を展開しています。「フレイル」とは「加齢とともに心身の活力が低下し、心身の脆弱性が出現しているが、適切な介入・支援により回復が可能な状態」と定義されますが、虚弱に陥った状態で、放置すれば要介護状態に至る状態と理解すれば良いかと思えます。フレイルは、単に「身体の虚弱」だけではなく、「心/認知の脆弱」、「社会性脆弱」が関わり合っていて、予防にはそれぞれに対応した処置が必要とされています。フレイル予防の三本柱として「身体活動」、「栄

養（食・口腔機能）」、「社会活動」が掲げられ、種々の取り組みが展開されています。「社会活動」がフレイルの改善に効果があるのか疑問に思い、これも少し調べてみますと、調査研究の結果ですが、社会活動（サークル活動、ボランティアなど）を行っている人と行っていない人でフレイル状態にある人に割合は、顕著な差を以て社会活動のある群で低くなっておりました。

#### 「社会参加のすすめ」

私の社会参加歴について記します。在職中は、大学中心の生活で、近所にお住まいの方とはご挨拶をする程度で、地域とのふれあいは殆どなく、ボランティア活動や地域のサークル活動は全くない生活でした。定年を迎えたときに、家内から勧められたというより半ば強制的に千葉県が運営する生涯大学校に入学しました。これが私にとって大学以外の初めて社会とのつながりとなりました。生涯大学校では、これまで自宅の近所に畑を借りて野菜作りをやっていたこともあり、園芸コース専攻致しました。1年の修学期間を終えた後に、自主園芸コースに2年通い、都合3年過ごしました。もう少し続けようと思っておりましたが、あいにく抽選に外れて断念しました。生涯大学の講義は、週に1日でしたが、クラスは総勢50名ほどで、新しい出会いもあり、刺激的なものでした。生涯大学校入学を決意したしばらく後のことにな

りますが、私の住む町内会を担当する民生委員さんが、何かの都合で任期の途中で突然退任され、後釜の補充ができずに、町内会の役員さん方が困惑していたところに、退職致しました私がおりました。なんとかお願いしますとの懇願に負けまして、民生委員の大役を引き受けることになりました。民生委員は、正式には民生委員・児童委員と称し、厚生労働大臣と、地域の市町村長の委託を受けて就任します。その任期は3年ですが、私は昨年1期目の任期を満了致しましたが、後任が見つからないことと任期を通じて十分に活動できなかった反省もあって、さらに1期継続して務めることになり、現在に至っております。民生委員活動を通じて、地域の老人会（最近ではシニアクラブといっています）や高齢者対象のサロンにも関係するなど、地域社会と関わっています。民生委員任務は煩雑であり、難しいことも多々有りますが、これまで経験できなかった地域社会の種々の人々とのふれあいの中、新しい発見も少なくなくありません。このような活動がフレイル予防にどれほどの効果があるのかは計り知れませんが、私の日常は能動的なものとなっているといえます。

時間に余裕があり、これから何をやるかとお悩みの皆様におすすめします。

ぜひ“社会活動への参加”を。



後列右から1人目が筆者（砂金先生）

# 生涯学習プログラム 2020年度後期講座のご案内

オンライン (Zoom) 配信により開催

東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター (SCCPEP) は、本学薬学部と各医療機関、製薬企業および医療行政などを繋ぎ、充実した臨床薬学教育および臨床研究を支援するために設けられた薬学部の附属機関です。薬剤師をはじめ薬学関連の社会人のスキルアップと研究活動を支援し、これら薬学の産官学連携を通じて、学部での実践的薬学教育の充実に繋がります。

また、本学の社会人大学院を活用して医療および製薬の現場で働きながら研究し、学位取得を目指す方の活動を支援します。どうぞご相談ください。

## 薬剤師のためのスキルアップ講座シリーズ

日々進化する薬物治療に関する知識のアップデートだけでなく、エキスパート養成、臨床研究の実施に役立つ講座を通じて薬剤師のスキルアップを目指します。

薬物治療アップデート講座	受講料: 各回 3,000 円	日程
「骨・癌 (仮)」早田匡芳、秋本和憲 (東京理科大・薬)		12/12(土)
「糖尿病の病態と治療」樋上賀一 (東京理科大・薬) 朝長修 (ともながクリニック院長)		10/24(土)
「疼痛・中枢薬 (仮)」 吉澤一巳、高橋秀依 (東京理科大・薬)		2021年 1/23(土)
「生薬・漢方 (仮)」羽田紀康、高橋秀依 (東京理科大・薬)		11/28(土)
「抗うつ・抗精神病薬 (仮)」齋藤顕宜 (東京理科大・薬) 功刀浩 (国立精神・神経医療研究センター)		2021年 1/9(土)

基礎薬学スキルアップ講座	受講料: 各回 3,000 円	日程
「文献検索の仕方」青山隆夫、嶋田修治 (東京理科大・薬)		10/10(土)
「学会発表の仕方・論文の書き方」 青山隆夫、嶋田修治 (東京理科大・薬)		10/17(土)

エキスパート養成講座	受講料: 5,000 円	日程
「第3回アカデミック・ディテラー養成プログラムC」 小茂田昌代 (東京理科大・薬 嘱託教授) 後藤恵子 (東京理科大・薬 客員教授)		12/19(土)

臨床薬剤師エキスパート講座	受講料: 各回 5,000 円	日程
「循環器系疾患における薬剤管理」尾関理恵 (順天堂大・医助教)、吉野喬志 (東京ハートセンター 薬剤師長)		2021年 2/27(土)
「妊婦授乳婦における薬剤管理」 中島研 (横浜南共済病院 薬局長)		2021年 1月 開催予定

## 企業・薬局におけるリスクマネジメント講座シリーズ

医薬品・食品のリスクコミュニケーションを実施するための知識や技術の修得を目指します。

食品安全講座	日程
「食品における毒性学」全5回 山添康 (東北大学 名誉教授) 受講料: 15,000 円	調整中
「食物アレルギーに関するリスク評価の現状」 内閣府食品安全委員会事務局 「薬剤師に必要な健康食品に関する情報」 梅垣敬三 (昭和女子大学 教授) 「食品に含まれるトランス脂肪酸」 吉田充 (日本獣医生命科学大学 教授) 受講料: 3,000 円	調整中

SNSによる情報提供とリスクマネジメント	受講料: 3,000 円	日程
「SNSによる情報提供とリスクマネジメント」 小野間良 (前厚生労働省クラスター対策班 コミュニケーション担当)		調整中

## レギュラトリーサイエンス研修講座シリーズ

薬学関連のレギュラトリーサイエンス (開発・評価・PV など) の知識や考え方を体系的に修得することを目指します。

医療機器講座	受講料: 5,000 円	日程
「プログラム・AI 医療機器の開発評価 (仮)」鈴木由香 (東北大学病院 臨床研究推進センター)、加藤健太郎 (PMDA)		12/3(木)

Adhoc 講座	受講料: 各回 6,000 円	日程
「改正薬機法について」 磯部総一郎 (公益社団法人 日本薬剤師会) 倉持憲路 (PMDA 医薬品品質管理部長) 高橋未明 (PMDA 医療機器品質管理・安全対策部長)		10/21(水)
「GCP/GLP/GMP のデータインテグリティ」 川北弘之 (PMDA 品質管理部)、染谷 仁 (PMDA 信頼性保証部)、小室美子 (PMDA 信頼性保証部)		11/16(月)

医薬品品質・GMP 講座	受講料: 各回 5,000 円	日程
「GCTP と再生医療等製品無菌製造指針 (仮)」 櫻井信豪 (東京理科大・薬 嘱託教授)、水谷学 (大阪大学大学院 工学研究科)、未定 (PMDA)		2021年 1月 開催予定
「医薬品 GMP 入門 - 今さら聞けない GMP - (仮)」 櫻井信豪 (東京理科大・薬 嘱託教授)、未定 (PMDA)		11月 開催予定
「新 GMP 省令の準備として」 櫻井信豪 (東京理科大・薬 嘱託教授) 今井昭生 (エーザイ株式会社)、未定 (PMDA)		2021年 3月 開催予定

※PMDA: 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

【申込方法】医療薬学教育研究支援センターHPの申込フォームよりお申込み下さい。自動返信メールで受講料のお支払方法などをご案内します。各講座の申込フォームは開催準備が整い次第、順次開設いたします。

【会場及び開催方法】通常は東京理科大学神楽坂キャンパスを利用して集合研修をおこなっています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、オンラインで開催いたします。

【ご注意ください】オンライン (Zoom) 配信により開催しますが、状況によっては配信方法の変更、講座の中止・延期場合があります。お申込みの際は HP で最新情報をご確認ください。どうぞよろしく願いたします。

各セミナーの詳しい情報・お申込みはこちら

東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター

<https://www.tus.ac.jp/sccper/>



# 「ふなかわら」32号に寄せて



理窓会会長 増淵 忠行  
(1968理学部1部物理学科卒)

薬学部同窓会上村直樹会長様から、今年も投稿依頼がございましたので筆をとりました。

## 理窓会の全国支部総会を通して

会長に就任した2018年から2年間で34都道府県の支部総会に伺いました。2021年に創立140年を迎える本学の卒業生が理科・数学の先生として全国で活躍されていますが、薬学部卒の皆さんも薬剤師や医療関係者として全国で活躍され、支部総会などを通してお話させていただいております。薬学部卒の支部長さんが3名おられます。

福島を押尾茂支部長さんは支部活動を含めた総会案内を奥様の協力を得て県内同窓生に999通発送し、さらにFacebookやmailなども駆使されたとのことでした。精力的で活気ある総会に同席させていただき感銘を受けました。理窓会のネットワーク拡大委員をお願いしました。

京都支部の藤森廣幸支部長さんとは京都支部だけでなく関西各支部やHCDなどを通して懇談させていただいている上、今年は押尾さん同様に理窓会の全国ネットワーク拡大推進委員もお願いし、適切なお意見、ご提案をいただいております。私は毎月A4版1ページの「会長短信」なるものを支部長さん中心に発信していますが、送信すると真っ先に感想を寄せてくださるのが藤森支部長で、情報のキャッチボールができるのはうれしく、次の行動（プレー）に繋がっています。

宮崎支部の坂元一貴支部長さんからも新たなパワーをいただいております。東京理科大学の薬学部を卒業後、鹿児島大学で歯学を学ばれ現在宮崎市内で歯科医師としてご活躍です。薬剤師であり医師でもある立場から新型コロナウイルス対応についてもいろいろ教えていただきました。

各都道府県で薬学部卒の皆さんのご活躍は素晴らしく、山陽小野田市立山口東京理科大学の池北雅彦理事長、佐賀支部の高橋秋彦様、大分支部の松崎忠史様ほか河島修一郎にも理窓会代議員としてご尽力いただいております。



## 理窓会本部活動を通して

一昨年、理窓会会長に就任した時、薬学部同窓会長の上村直樹先生と国内外の民間企業で活躍されている昌子久仁子さんに理窓会本部の常務委員に加わっていただきました。加えてこの4月からは小茂田昌代先生にも常務委員をお願いしました。

上村先生からはテレビやラジオを通して、分かりやすい薬のお話をいただき大いに勉強になり助かっています。「かかりつけ薬剤師」を持つ大切さも学びました。また昨年の初秋には山梨県韮崎市に大村智先生を尋ねましたがそのリーダーとしてご尽力いただきました。本誌31号に詳しく記載されております通りです。今年も是非実施を考えましたが、新型コロナの感染予防上、涙をのんで見送りました。コロナが収束したら必ず再計画したいと話合っています。昌子久仁子さんからは会議の席上、幅広い見地から適切な質問、ご意見をいただきありがたく受け止めています。

小茂田先生にはダイバーシティ推進委員会の委員長をお願いしました。これまでの女性活躍推進委員会を発展させたいがコロナ禍の中、ICTを活用した推進を母校・東京理科大学と連携しての推進をお願いしています。

## 薬剤師さんのお仕事

和歌山支部総会に伺ったとき、眞野裕子さんのミニ講演「薬剤師さんのお仕事」も楽しく聞かせていただきました。またテレビ番組「アンサンブシンドレラ」を通じて再認識したのですが、大学病院のような大病院での薬剤師さんの働きをもっともっと啓蒙する必要があると思いました。極端な言い方をすれば、診察により病気、病名を決めるのはお医者さんですが、病気を治すのは「薬」、つまり薬剤師さんのお仕事であることを再認識しました。

## with corona時代を

令和2年7月18日、軽子坂のルコで薬学部同窓会の総会・懇親会計画を伺い、楽しみにしていましたがコロナ禍の影響で残念なことに中止になってしまいました。理窓会の本部行事、支部総会も軒並み中止になっていますが、Zoomなどを適切に活用しながら新しい生活様式を身に付け、with corona時代をうまく乗り切りたいと思います。

薬学部同窓会の皆様の専門的な知識と経験を生かし、世の為、人の為にご尽力ください。一段と素晴らしいご活躍をご祈念申し上げ筆を下させていただきます。 以上

## 薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています

薬学部同窓会の皆様、日頃より同窓会活動にご協力いただきありがとうございます。

また 本年も昨年に引き続き会費納入本当にありがとうございました。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。

そして 本年度から新たな同窓生となりました令和2年3月卒業生57期、修了の皆様、ならびにご父兄の皆様からも本同窓会活動に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は同窓生の真心と会費により運営されております。

今後とも、よろしくお願いいたします。

### 2020年度会費納入のお願い

2019年度に引き続き、2020年度会費納入をお願いいたします。

各会員の会費納入状況は、ふなかわら送付時の宛名の下部に記載してありますのでご確認ください。なお、会

費納入の際には、同封の郵便局振替用紙をご利用ください。会費は年会費2,000円（何年分でも納入できます）、終身会員50,000円です。ご寄付も受け付けておりますのでよろしく願い申し上げます。

(終身会員・∞)

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：終身会員の方は、納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

(20××年3月まで済み)

20××年3月まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

(2020年度・お願い)

2020年度の会費未納の会員の方：よろしく願い致します。

### 令和元年度 会費納入額詳細 (令和2年3月31日現在)

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	件 数	
令和元年度卒業・修了者	54,000	3	780,000	26	0	0	834,000
既卒者	326,000	58	980,000	20	43,000	4	1,349,000
合 計	380,000	61	1,760,000	46	43,000	4	2,183,000

### 薬学部同窓会会員数 (令和2年3月31日現在)

	卒業生数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	10,243名	2,256名	953名
大学院修了生	221名	19名	8名
合 計	10,464名	2,275名	961名

## 「幹事会」は「定例会」に変わりました

薬学部同窓会では、年に4回（4月、7月、10月、1月頃）、幹事会を開催しておりました。今後はより多くの皆様にご参加いただきたく、名称を、「幹事会」から「定例会」とすることが、昨年7月の同窓会総会にて承認されました。

日時、場所についてなど、詳しくは同窓会ホームページ (<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>) に掲載されます。

毎回、ささやかではございますが、懇親会も開催いたしております。皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

特に、33期、36期、41期以降の同窓の方、ぜひ定例会にいらしてください。

心よりお待ちしております。



「ホーム延長により理科大が望める」



「西口駅構内」上村直樹（同窓会長）撮影

## 東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

### 【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局  
 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館1F  
 FAX：04-7121-4531 E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp  
 FAXまたはE-mailのみの受付とさせていただきます。

### 【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>  
 行事などに関する最新の情報を掲載しておりますので是非ご覧ください。また、ホームページのWEB名簿システムを利用して、パソコンから登録情報の変更をすることができます。ぜひご利用ください。

## 編集後記

今回、何とか「ふなかわら」はお届けすることができました。今年は春先より「新型コロナウイルス感染拡大防止」という今まで体験したことのないテーマに社会全体がさらされることとなり、我が薬学部同窓会も年明けに通常の定例会を開催したのを最後に、同窓生が集まっての定例会、さらには薬学部同窓会総会の開催も取り止めることとなってしまいました。そんな中にあっても、「ふなかわら」作成にあたり筆を執っていただいた卒業生の皆様ならびに先生方に、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。これから先、しばらくは「新型コロナウイルス感染拡大防止」というテーマが社会全体を覆うことが予想されますので、我が同窓会も定例会開催等の活動自粛を余儀なくされることと思われまます。そんな状況下ではありますが、この「ふなかわら」で同窓会の雰囲気を感じていただければ幸いです。卒業生の皆様ならびに先生方には、引き続きご寄稿をお願いすることとなります。どうかご快諾いただき、充実の紙面にてお届けできるよう、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。(K.U)

## 令和2年度同窓会幹事一覧

小原 侃 (1)	石井 啓子 (10)	林 譲 (14)	小嶋 知夫 (19)	和田 和裕 (22)	秋本 和憲 (28)	金枝 有香 (40)
黒崎 浩己 (1)	安達 順一 (11)	菅原 伸治 (15)	鈴木 康正 (19)	上村 直樹 (23)	大瀧 充 (29)	加藤 美里 (40)
山口堅志郎 (1)	石井 甲一 (11)	日向章太郎 (15)	高梨 契典 (19)	佐藤 薫 (23)	神谷 貞浩 (29)	柴崎光太郎 (40)
生田安喜良 (2)	小暮 涉 (11)	和田 浩志 (15)	永井 健一 (19)	中村 兼一 (23)	内村 兼一 (30)	高橋 智至 (40)
鈴木 政雄 (3)	岡宮 智子 (11)	遠藤 健治 (16)	長谷川俊雄 (19)	森田 深雪 (23)	菊地 主税 (30)	斎藤 友佳 (43)
中村 洋司 (3)	富秋 英志 (11)	関口真紀子 (16)	小松 俊哉 (20)	桐井まゆみ (23)	水 八寿裕 (30)	杉野由香里 (43)
池田 幸雄 (4)	向井 呈一 (11)	田畑 新 (16)	飯野 直子 (21)	秋山 裕一 (24)	高橋 未明 (31)	永井 恵子 (43)
幡野千丕子 (4)	飯島 康典 (12)	武田 直子 (16)	吉田 雅人 (21)	五十嵐 澄 (24)	中川 瑞徳 (31)	森脇 洋典 (43)
山田 高照 (5)	金澤 幸江 (12)	今 和枝 (16)	牧田 美保 (22)	金森 道枝 (24)	佐々木正大 (32)	松本 洋典 (43)
湯田 康勝 (5)	田中貴代子 (12)	渡部 敏行 (16)	花岡 信子 (22)	佐藤 修一 (24)	渡邊 悦史 (32)	高尾 圭一 (45)
藤井 幸子 (6)	田端 敬一 (12)	青山 隆夫 (17)	安藤 秀一 (22)	石井 丈久 (25)	小島 昌徳 (34)	岡田 隆一 (50)
寺山 博行 (7)	根元 恒男 (12)	押尾 茂 (17)	磯部 総一郎 (22)	野村 香織 (34)	伊集院一成 (25)	亀山あずさ (52)
松岡 隆 (8)	小高 賢一 (13)	大山 邦之 (18)	小川 政彦 (22)	原 靖明 (25)	宮田 正一 (35)	宮田 悠一 (52)
奥村 成太 (8)	石井 文由 (14)	関 裕史 (18)	粕田みどり (22)	小林 寧 (26)	金井 亮介 (37)	高橋 悠一 (52)
武尾 勝司 (9)	若崎 修 (14)	渡辺 宏二 (18)	樽野 弘之 (22)	関根 靖之 (26)	浅井 将 (37)	高橋 隼人 (54)
中島 敏夫 (10)	畑中 典子 (14)	山内 紀子 (19)	永井 健二 (22)	若松 正克 (26)	上林 敦 (38)	田代 大将 (54)
原 しげ子 (10)	昌子久仁子 (14)	小川恵津子 (19)	高井 幸恵 (22)	前田 真 (27)	遠藤咲智子 (39)	西須 裕人 (54)